財団法人 日本ハンドボール協会編　平成24年 4月1日発行(毎月1回1日発行)　通巻526号　昭和40年6月7日第3種郵便物認可

ハンドボール

特集

第15回 男子アジア選手権
第20回 JOCジュニアオリンピックカップ
全日本社会人チャレンジ2012

3・4

MAR.APR.2012・No.526

[表紙写真：JOCジュニアオリンピックカップ男子優勝・沖縄選抜の伊舎堂博武選手：写真提供・スポーツイベント社]

勝ち取れ　ロンドン!!
（創立75周年を迎える新年度のスタートに当たり）

（財）日本ハンドボール協会 会長　**渡邊 佳英**

昨年10月に開催されました2012ロンドンオリンピックアジア予選では、男女とも2位に終わりました。そのためロンドンオリンピックの出場権を賭け、男子は4月にクロアチアで、女子は5月にフランスで開催されます世界最終予選に出場することとなりました。悲願の出場権を獲得するため、全力で取り組んでいるところです。また、日本ハンドボール協会は来年2月2日に創立75年を迎えます。ぜひ今年度が素晴らしい年になるよう、以下の内容について総力を挙げて活動して参ります。

◆強化については、最大の目的であるロンドンオリンピック出場権獲得の残されたチャンスである世界最終予選に向けて全力で戦い抜きます。そして「短期・中期の強化計画」を策定し、①日本代表チームの更なるブラッシュアップ、②強化体制・NTS・ジュニアアカデミー・各カテゴリー強化の活動の活性化、③指導者・スタッフの養成・充実、④強化方針・指導方針の一本化を徹底、⑤「競技者育成技術委員会」の充実等を図ります。

◆審判については、国際レフェリーの育成をさらに加速させ、IHF、AHFとの積極的な連携を図り、トップレフェリーの充実と若手トップレフェリーの育成に努めます。

◆競技については、強化を更に推し進めるために国内競技大会の新設、大幅改正、スケジュール変更に取り組み具現化を進めます。

◆指導普及については、競技人口のアップ・国際競技力向上の目的のために、強化部門と連携した指導者の育成と指導方針の徹底を図ります。さらに国内（協会、都道府県）の指導者拡充と養成・研修について具体策を提示し取組を強化します。

◆マーケティング・広報については、ハンドボールの総合的バリューを創出し、新しいスポンサーの獲得・拡大、イベントの企画、マスコミへのアプローチに加え、新たなマーケティング活動のチャンスについても開拓します。

◆国際については、IHF、AHFの施策に対応し「アジア地域の発展」をベースにEAHFとの結束を更に強固なものとし、新しい提案、人的交流を行い、IHF、AHFとの関係を密にする活動を行います。

◆日本リーグについては、リーグの充実を図るため「新規加入チームの拡大」、「新ディビジョンチームの拡大・育成」に取り組みます。

◆総合企画については、ジャパンカップ2012 in 豊田、創立75周年記念事業の企画を行います。

◆総務については、公益財団法人移行につき、平成25年4月1日設立に向け、諸事項を整備し、申請業務に入ります。日本協会に携わる役員の育成・充実と事務局業務の充実に取り組み、日本協会全体のガバナンスとコンプライアンスの徹底を図ります。

◆組織活性化プロジェクトについては、既に設立なった社会人連盟の活性化に取り組み、登録金の再検討も含め、競技人口アップにつながる活動を推進します。

◆がんばれ20万人会については、「ハンドボール界総力をあげての日本代表を応援する」、「20万人を達成することによるハンドボールのバリューアップ」等の本来の目的を踏まえ、諸策を見直し20万人を目指します。

以上、今年度も皆様の幅広いご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

第15回男子アジア選手権
（兼 2013 年男子世界選手権アジア予選）

団長 川上憲太

第 15 回男子アジア選手権は、2012 年 1 月 28 日～ 2 月 5 日まで、初めてサウジアラビアの第 2 の都市ジェッダで開催されました。サウジアラビア協会は大変な力の入れようで、地元テレビは連日ライブで全試合を放送、大会運営も申し分なく盛り上がった大会となりました。ホテル・水・食事・アクセスもほぼ文句無しでした。選手は予想した以上に良い環境の中で試合に挑むことができました。日本の予選ラウンドは韓国、イラン、クウェート、ヨルダンと、大変厳しいグループでの戦いとなりました。

結果、クウェート・ヨルダンに 2 勝、イラン・韓国に 2 敗となり、全勝の韓国に続く 2 位争いは、日本・イラン・クウェートが 2 勝 2 敗で並び、総得点でわずかに上回る（1 点差）日本が 2 位で予選リーグ突破となりました。本大会での中東勢のコンディションは万全で、各チームとも十分な準備・調整がされていました。オリンピックアジア予選の実力そのままのイラン、がらりと選手が入れ替わり必勝ムードで挑んで来たクウェートとの戦いは、改めて多くの教訓を与えてくれました。

クウェート戦は途中点差をつけられ冷やっとする場面がありましたが、小澤・豊田の確実な得点で点差を詰め最後に突き放しました。2 勝で挑んだイラン戦は（ロンドンオリンピックアジア予選の実力そのままに）高い打点のバックプレーヤーのシュートを防ぎきれず、最後まで粘るも 2 点差で敗北となりました。韓国戦は本大会特に目立ったユン・キョンシンの老かいさに屈した形となり、残り 10 秒で得点を許し 1 点差負けとなりました。本大会優勝の韓国も後半 4 試合すべて 1 点差勝ちというきわどい内容で、中東勢との差は益々紙一重となった感が歪めません。

「試合毎に死力を尽くして戦う気力・体力・精神力の大切さ」「60 分間を通し、一瞬の気の緩み・緩慢なプレーが命取りとなり、勝敗また得失点差に影響が出たりすること」「最後は全員でチーム一丸となった精神力で戦うこと」、日本代表がチームとして選手個人として持たねばならない基本を痛感しました。1 対 1（ディフェンス、オフェンス両方）、スピード、渾身のシュートは勿論のことです。

決勝ラウンドは「アジア No. 1 に返り咲く」「No. 1 を奪い取る」気力で挑みました。1979 年第 2 回中国南京大会以来の 33 年ぶりの優勝です。しかし、準決勝対カタール戦は全くかみ合わず、空回りという状態で、最後まで日本ペースを作れないまま敗戦となりました。最終対サウジアラビア戦は 3 位決定戦、勝てば 2 大会連続の世界選手権（スペイン）出場権獲得でした。会場は完全なアウェー状態で、最後に点差を詰めるも時間切れ、何とも悔いの残る試合でした。世界最終予選に向けて、まだまだ課題の残る内容となりました。

この大会を通して、IHF プラウゼ審判長がスーパーバイザーで立会い、またヨーロッパレフェリーが 2 ペア送り込まれて、準決勝・3 位決定戦・決勝を担当し、IHF 監視の元、全く問題ありませんでした。

中東勢の益々の台頭は脅威を感じる所ですが、ヨーロッパコーチの指導、国籍問題の徹底化、選手層の薄さ等のポイントをきちんと分析していけば対応できると感じました。勿論、日本代表の益々の切磋琢磨は不可欠であります。

日本代表男子チーム監督・酒巻清治

2012年ロンドンオリンピックの年始早々、1月6日より日本代表男子チームは来年スペインで開催される世界選手権アジア予選に挑むべく、トレセンにて強化合宿をスタートした。

招集メンバーは昨年11月の韓国でのオリンピックアジア予選より、3名（故障者）を地引（大同）、藤田（車体）、東長濱秀作（湧永）と入れ替え、また国内シーズンで好調を維持する若手の可能性に期待し、総勢23名となった。今合宿の目的はチームビルド・戦術の再確認・フィジカルコンディションの維持または向上とし、特にチームビルドについては新主将を武田（大同）とし、中堅の門山（車体）、若手の代表格・小澤（大崎）を副主将に据え、短期間での強化におけるコミュニケーション不足を解消することも含め、若干の経験不足を総合力で補うことも大きな課題であった。戦術については大幅なメンバー入れ替えはなかったものの、若手の登用と久しぶりの復帰組に多少「認識」の差が出ることも懸念されたが、これらのメンバーの集中力が高く杞憂に終わった。

直前合宿は代表初となる中東遠征を敢行、カタール・バーレーン・サウジアラビアなどでテストマッチを重ね、ライバル国のホスピタリティーと強化策に感謝と驚きを感じながら本大会へと乗り込んだ。以下対戦内容の詳細を記す。

予選ラウンド

1. ヨルダン：1月28日

近年対戦がないチームであったが、前日韓国チームとの対戦を観戦し、各選手の特徴をつかんでいたことがゲームのスタートから好転した。特にDFにおいて相手の中心選手を抑えることに成功し、終始ゲームを優位に進めることが出来た。

2. クウェート：1月29日

予選グループの大きなポイントになるゲームと踏んでいた。開幕戦でクウェートがイランに勝利していたため、大型メンバーをそろえたイランよりも先にクウェートと対戦し今後の展開を有利に進めたかった。試合スタートよりクウェートのバックプレーヤー陣に手を焼き、プッシングギリギリの攻撃を受け止めることに日本DFが問題を抱えた。前半の終了時に同点で何とか折り返し、後半に入り徐々にペースをとることに成功。最終的には3点差をつけることが出来た。この3点差が次のラウンドへ大きな意味を持つことになった。

3. イラン：1月31日

予選グループにおいて日本のDFが一番苦しめられる相手と予想して挑んだ試合。左右のバックプレーヤーの強打をセンターDFが引いて受けてしまったため、イランの最大の武器であるバックプレーヤー陣に簡単に得点を許してしまった。その後も攻守の切り替えが悪く、終始主導権を握られる状況が続き勝利を収めることができなかった。しかし試合終了時に得失点を考慮したことが奏功し、2点差以内であれば、3チームでの対戦間得失点で有利になることから、最終的に2点差での敗戦に抑えたことが今後の展開に生きた。

4. 韓国：2月1日

グループ最終戦。勝てば予選グループ1位通過、引き分けで2位通過決定。負ければ翌日のクウェート対ヨルダンの結果次第では予選リーグ3位となりこの時点で世界選手権の出場権は獲得できなくなる試合。スタートから選手たちの集中力は素晴らしく、韓国の攻撃陣を11月のオリンピックアジア予選同様よく抑え込んだ。しかしながら攻撃でのミスにより失点を重ね、前半終了時には2点差をつけられてしまった。後半にはいっても苦しい状況が続いたが、ここまで相手の攻撃をしのいできたGKを中心としたDFが更に動きが良くなり、徐々に点差を詰めることに成功。残り時間10秒、6:5数的優位な状況を得点できず1点差での敗戦となった。

予選リーグ最終戦においてクウェートがヨルダンに勝利したため、日本の準決勝が決定。クウェート・イラン・日本の3チームが同率で並んだものの、大会規定により3チーム間での「総得点」の多いチームが上位になることから、何とか準決勝進出を果たした。

本選ラウンド

5. 準決勝：カタール :2月3日

チュニジア・エジプト・シリア・スロベニアの各代表レベルの選手をそろえるカタールとの準決勝。試合スタートからエジプト代表であった左バックに得点を許し、攻撃では相手のハードコンタクトにミスを発生し厳しい状況に追い込まれた。終始主導権を握られての完敗となり、サウジアラビアとの3位決定戦にまわることになった。

6.3位決定戦：サウジアラビア：2月5日

中東勢の中では技巧派であり、今大会にベイルートで苦しめられたベテランを戻したことによるチームの熟成度は高く、勝負を最後まであきらめないチームである。前半からセットでのDF力では上回っていたものの、攻撃でのミスが全てであり、準決勝同様、悪循環を繰り返した。結果2大会連続での世界選手権出場を逃す。

大変残念な結果におわり、ご声援頂いた皆さんには大変申し訳なく思っています。

今大会を闘った選手たちの取り組みにより「アジアNo.1奪還」の可能性について大きく期待するばかりに、指揮官で

ある私自身の「焦り」が選手のパフォーマンスに悪影響を及ぼした事は大きな原因に挙げられます。しかしながら4月の世界最終予選については多くの「課題」をもらいました。今大会に臨むにあたり世界最終予選を見据えて取り組んだパフォーマンスとメンタル強化をしっかり図り、残されたチャンスをものにできるよう全力を尽くします。

最後に、年末年始休日返上でご支援頂いた協会事務局、緊急のメンバー変更によりチーム活動を制限された各チームのバックアップ、選手の体調維持に絶大なるサポートを頂いたスポンサー各社、大変お世話になり有難うございました。4月の最終予選に向け引き続きご支援ご声援賜ります様宜しくお願い申し上げます。

主将・武田 享

1月26日から2月5日の期間で2013年スペイン世界選手権予選第15回アジア選手権がサウジアラビア・ジェッダで開催されました。私たち男子日本代表は日頃のトレーニングの成果を発揮すべく、アジアNo. 1奪回を目標にサウジアラビアに乗り込みました。

1試合目は中東のヨルダンとの対戦。試合序盤から日本の攻守が機能し、前半15分過ぎには10点差をつける余裕の展開となり、最終的には35対22の大差で勝利を収めました。2戦目のクウェート戦は前半14対14の互角の展開となりますが、後半は日本が勝負所でリズムを奪い30対27の3点差で勝利しました。つづく3戦目は中東の強豪イランとの対戦。この試合に勝利するか引き分けでも準決勝進出が確定する大事な1戦。試合序盤は、大型のバックプレーヤーに打ち込まれリードを許す展開となり前半を12対13で折り返す。後半20分過ぎに同点に追いつくが、終盤で連続失点を許してしまい、25対27の2点差で敗戦となりました。予選リーグ最終戦は韓国との対戦。試合は日本が攻守ともに機能しリードするが、徐々に点差を詰められ前半終了間際に得点され、13対14で折り返す。後半に入り一進一退の攻防が続くが、残り15秒でカットインを決められ27対28となり、日本の最後の攻撃はシュートまで持ち込めず試合終了となりました。最終戦で2勝2敗となりましたが、得失点差によりグループ2位で準決勝に進みました。

準決勝は中東のカタールとの対戦。この試合もイラン戦同様に、相手の高さに苦しみ上手く試合運びが出来ず28対33で敗戦し、3位決定戦へ進む事となりました。3位決定戦は地元のサウジアラビア。この試合に勝利しなければ、世界選手権の道が閉ざされてしまう大切な1戦。試合は序盤から激しい攻防が続き、一進一退のシーソーゲームとなる。前半残り7分11対9とリードを奪うが、そこから日本の得点が止まりサウジアラビアに連続で得点され11対13の2点ビハインドで折り返す。後半に入り、地元の大声援を後押しに攻めてくるサウジアラビア。その勢いを止める事が出来ずに次々と失点を許してしまい7点差をつけられてしまう。反撃したい日本だったが、相手の守備を崩す事が出来ず、21対25で試合終了となり4位で今大会を終えました。前回は3位で世界選手権に参加し、世界の強豪国と対戦することによって日本代表が成長する事が出来ました。しかし今回は世界選手権の出場権を取れなかった事で、若い世代が世界の強豪国と対戦する事が出来なくなってしまい、非常に残念でなりません。

今大会を振り返ると相手の高さに苦しめられる展開が多くありました。とくにイラン・カタールは大型の選手が多く、制空権を取られ後手に回ってしまいました。そして中東というアウェーの地でトーナメントを戦いぬく厳しさもありました。4月に行われるオリンピック世界最終予選もアウェーの地で大型の選手を相手にしなくてはなりません。相手はクロアチア・アイスランド・チリと強豪ばかりですが、チャンスはあります。これまで支えて下さった関係者や家族、そして日本のハンドボールファンの為にも、是が非でもこの最終予選を突破し、日本にオリンピックのチケットを持って帰りたいと思っています。

【試合結果】

▶予選Aグループ

韓国　25（11－7、14－6）13　ヨルダン
クウェート　27（14－14、13－12）26　イラン
日本　35（18－10、17－12）22　ヨルダン

【戦評】
試合開始直後、GK甲斐のセーブから岸川が速攻を決め先制点を奪うと、小澤・富田・豊田らの得点で6対2とリードする。その直後にもGK篠内が7mスローのセーブから武田の速攻、さらに門山・小澤・東長濱秀作らの5連続得点などで16分には14対4と10点差をつける。前半終了間際にミスから連続失点するものの18対10で前半を折り返す。後半も安定した6-0ディフェンスから得意の速攻につなげ、村上・高智・藤田らの速攻で加点。終始、日本ペースで試合が進み35対22で初戦に勝利した。

【得点者】
小澤：9点、豊田・門山：5点、村上：4点、岸川：3点、末松・高智・東長濱秀作：2点、武田・富田・藤田：1点

韓国　26（16－7、10－14）21　イラン
日本　30（14－14、16－13）27　クウェート

【戦評】
昨日同様、立ち上がりGK甲斐のセーブから東長濱秀作が持ち込み先制点を奪う。ディフェンスではクウェートの大型バックプレーヤーへのマークミスから失点してしまうが、日本はクイックスタートで対応し、11分過ぎで6対7。16分過ぎには連続失点で7対12とリードを広げられてしまう。しかし、ディフェンスでリズムをつかむとクウェートのミスを誘う。これを武田・豊田・藤田らの連続ゴールで再び11対12と1点差に。その後もこの攻防が続くが残り2秒、相手のシュートミスを藤田が持ち込みゴール。前半を14対14の同点で折り返す。後半も日本はクイックスタートを継続し、相手の体力を消耗させる。8分、村上のカットインで17対17の同点に追いつくと、末松・豊田・高智の連続ゴールで20対17と逆転。中盤以降、2点差まで詰め寄られるものの、門山・富田らの得点でリードをキープして試合終了。30対27で勝利。一試合を通じてGK甲斐の集中力が光った試合であった。日本はクウェートに対して1991年アジア選手権以来の勝利となった。

【得点者】
豊田・東長濱秀作：7点、末松・門山：4点、高智・藤田・村上：2点、武田・富田：1点

イラン　25（16－10、9－7）17　ヨルダン
韓国　27（14－12、13－14）26　クウェート
イラン　27（13－12、14－13）25　日本

【戦評】
大型のバックプレーヤーを擁すイランに対しディフェンスの足が動かず、立ち上がりに連続失点を喫し、6分過ぎで2対6とリードされる。徐々にディフェンスも機能し、イランを約10分間無失点に抑える。その間に小澤・門山の連続得点で6対6の同点に追いつく。このまま勢いに乗りたいところだが、イランもロングシュートで応戦し逆転できず、前半を12対13で折り返す。後半、岸川らの得点で加点するが、イランの攻撃への対応が遅れ、12分までに15対20の5点差をつけられてしまう。その後、GK篠内の好セーブから流れをつかみ東長濱秀希、末松、富田、武田らの得点で22分に21対21と同点に追いつく。この流れを継続したいところだったが、ミスから4連続失点してしまい21対25。残り3分を切り、村上、東長濱秀作、豊田らが得点するが、追いつくことができず25対27で試合終了。明日、予選リーグ1位をかけて韓国戦に臨む。

【得点者】
小澤・門山：5点、豊田：4点、高智・岸川・村上：2点、末松・武田・富田・東長濱秀作・東長濱秀希：1点

韓国　28（14－13、14－14）27　日本

【戦評】
立ち上がり、富田のポストシュートで先制するとGK篠内の連続セーブから東長濱秀作・門山の速攻、さらに岸川がパスカットから自らシュートを決め5対2とリード。ディフェンスではキャプテン武田を中心とした気迫あふれるプレーとGK松村の7mスローセーブなどで日本のペース。しかし、シュートミスなどから連続失点で14分に8対7と1点差まで詰め寄られる。24分、12対11で日本は一人退場者を出してしまうと、ここで12対12の同点に追いつかれるが、すぐに東長濱秀希のミドルシュートで13対12。前半終了間際に連続失点をしてしまい13対14で折り返す。後半、日本は追いかける立場になるが小澤のサイド、クイックスタートから富田のポストなどで加点し16対17。追い上げムードになるが、大事な場面にミスが重なり、13分で18対22と4点差をつけられてしまう。ここから日本は粘りを見せ、高智・豊田・東長濱秀作らの得点で22対25。さらに27分までに門山・小澤らの得点で26対27の1点差。ここで韓国はタイムアウトを請求するが、チャージの判定で日本ボール。28分、韓国が1人退場し、日本はチャンスを得ると小澤がサイドシュートを決め、27対27の同点に追いつ

く。29 分、韓国もエースがカットインを決め 27 対 28。残り 15 秒、日本はタイムアウトを請求し 1 点を奪いに行くが、最後はシュートまで持ち込めず 27 対 28 で試合終了。最終戦でクウェートが勝利したため、日本・イラン・クウェートの 3 カ国が 2 勝 2 敗となったが大会規定により日本が A グループ 2 位となり、準決勝に進出した。

【得点者】

東長濱秀作:7 点、豊田・門山:6 点、小澤:3 点、富田:2 点、高智・岸川・東長濱秀希:1 点

クウェート　31（12－15、19－13）28　ヨルダン

▶予選 B グループ

UAE　40（22－13、18－7）20　ウズベキスタン
バーレーン　23（9－13、14－10）23　サウジアラビア
カタール　41（23－5、18－14）19　ウズベキスタン
カタール　27（12－13、15－13）26　バーレーン
サウジアラビア　26（15－10、11－9）19　UAE
サウジアラビア　47（22－6、25－8）14　ウズベキスタン
カタール　28（12－9、16－12）21　UAE
バーレーン　52（24－8、28－7）15　ウズベキスタン
サウジアラビア　24（10－14、14－10）24　カタール
バーレーン　30（14－12、16－17）29　UAE

▶ 9-10 位決定戦

ヨルダン　32（17－17、15－13）30　ウズベキスタン

▶ 7-8 位決定戦

UAE　31（15－12、16－17）29　クウェート

▶ 5-6 位決定戦

イラン　25（11－12、14－8）20　バーレーン

▶準決勝

韓国　27（14－13、13－13）26　サウジアラビア
カタール　33（19－13、14－15）28　日本

【戦評】

門山のミドルで先制するものの、マークミスからサイド・ポストにボールを集められ失点。それでも 17 分までは東長濱秀作・小澤・高智・豊田らの得点で 8 対 9 と 1 点差。しかしここから連続ミスがすべて失点につながり 8 対 13 とリードを広げられる。その後、豊田のシュートで応戦するが、点差を広げられ 13 対 19 で前半を折り返す。後半、GK 松村のセーブから速攻を仕掛けるもゴールを奪うことができない。点差を縮めたい日本は小澤のサイドシュートなどで加点するも、9 分まで 17 対 23 と 6 点差は変わらず。何とか日本のリズムの変えたいところだったが、攻撃が単調になり、シュートが決まらない。この間に 5 失点し 15 分過ぎで 17 対 28 と点差を広げられてしまう。その後、日本は 4-2 ディフェンスにしてカタールのミスを誘い、高智・豊田らの速攻で加点。さらに残り 5 分を切ってから末松の 7m スロー・藤田・村上ら速攻で追い上げるが、28 対 33 で試合終了。残り 1 つの世界選手権の出場権をかけて 2 日後に地元・サウジアラビアと対戦する。

【得点者】

豊田:9 点、門山:6 点、小澤・高智:4 点、末松:2 点、藤田・村上・東長濱秀作：1 点

▶ 3-4 位決定戦

サウジアラビア　25（13－11、12－10）21　日本

【戦評】

立ち上がり、先制点は奪われるものの GK 松村の連続セーブから門山がミドルを決め 1 対 1。流れの乗りたい日本だが、オフェンスミスから逆速攻での失点が重なり 8 分までに 3 対 5 とされる。ようやく東長濱秀作・小澤の連続得点で 4 対 5 とし、1 点を追いかける試合展開のなか、17 分に富田・豊田・小澤の 3 連続得点で 10-9 と逆転。さらに GK 篠内の 7m スローセーブから東長濱秀作のミドルを決め 11 対 9。しかし、残り 7 分間を無失点に抑えられ、連続失点で前半を 11 対 13 で折り返す。後半、相手のミスから速攻のチャンスを得るがシュートが決まらず 7 分過ぎの野村の 7m スローが後半の初得点。その間の連続失点で 12 対 16。11 分過ぎ、一人退場者を出す間にも 3 連続失点で 12 対 19 と 7 点差をつけられる。残り 10 分を切り 16 対 23 の 7 点差は変わらないが、ここから豊田・小澤・武田・高智と 4 連続得点で 20-23 と 3 点差まで詰め寄り、逆転を狙うが、攻めきることができず 21 対 25 で試合終了。最終順位は 4 位となり、2013 年にスペインで行われる世界選手権の切符を獲得することはできなかった。

【得点者】

豊田:5 点、小澤:4 点、東長濱秀作:3 点、富田・門山:2 点、末松・高智・武田・岸川・野村：1 点

▶決勝

韓国　23（10－11、13－11）22　カタール

【最終順位】

1 位：韓国、2 位：カタール、3 位：サウジアラビア、4 位：日本、5 位：イラン、6 位：バーレーン、7 位：UAE、8 位：クウェート、9 位：ヨルダン、10 位：ウズベキスタン

株式会社FDR・フレンディア

さらに新しくなりました！

ドクター・水素水®

NEU PREMIUM

ノイ プレミアム

ドクター・水素水は、
水に入れるとスティックから
常時水素が発生するので、
高い濃度の水素を
摂り入れることが出来ます！

水素(H_2)と有害な活性酸素の働き

体内の有害な活性酸素の蓄積は、環境、タバコ、酒、ストレス、紫外線などが原因の一つであると言われています。水素(H_2)はこの有害な活性酸素と反応し、水(H_2O)になり、体を健康へと導いてくれます。1日1.5ℓ～2.0ℓの水素水を何回かに分けて飲用する事が大事なポイントです。

※活性酸素は、お酒、タバコ、食品添加物、化学物質、ストレス、紫外線、そして激しい運動時にも多量に発生します。

ドクター・水素水の使い方

0.5～2.0ℓ用の清潔なペットボトルに水を注ぎ、スティックを入れてください。(ミネラルウォーターのペットボトルをおすすめします)。投入後2時間後には豊富な状態になりますが、より濃い水素水をお飲みいただくためには、一晩(約8時間～)放置して翌朝には水素豊富水が出来上がります。

ご提案

Q:ペットボトルに何本いれたらいいですか？

1本・・・健康維持のために
2本・・・体調のすぐれない方
3本・・・体調管理が必要な方

※水素(H_2)は厚生労働省既存食品添加物192番に指定

スポーツアスリートにおすすめ！

※水素(H_2)の作用について

水素(H_2)の働きに関して世界の大学や専門機関が学会誌に論文を発表しております。詳しくは下記のサイトをご覧ください。

http://.suisosui.org/

※本製品は商品改良のため予告なく変更する場合があります。

第20回 JOCジュニアオリンピックカップ(2011)

大会を振り返り

大会事務局長・中谷秀将

第20回JOCジュニアオリンピックカップ（2011）ハンドボール大会が、12月24日（土）~28日（水）までの5日間、名古屋市にある「愛知県体育館」「枇杷島スポーツセンター」「露橋スポーツセンター」の3会場で開催され、男女各24チーム（全48チーム）が、雪の舞う寒い名古屋を熱戦の連続でヒートアップさせてくれました。3月に発生した「東日本大震災」の影響で「春の全国中学生ハンドボール選手権大会」が中止になるなど、激動の1年でしたが、東北ブロック代表として岩手県選抜（男女)、福島県選抜（男女)、秋田県選抜（男子）の5チームも、ブロック予選を勝ち抜いて本大会出場を果たしました。

今年で20回という節目を迎えた「JOCジュニアオリンピックカップ」。近年では出場チーム数の増加にともない、中学校カテゴリーの集大成を発揮する全国大会としての地位も確立され、ハイレベルな試合展開で大変な盛り上がりを見せています。記念大会ということで会場では、過去にこの大会で活躍した優秀選手の当時の写真と現在活躍している写真を合わせたパネル展示なども行われ、この大会がこれまでに積み重ねてきた歴史を垣間見ることもできました。

初日の開会式では、ビーチバレー競技で日本代表として活躍し、北京五輪で9位入賞を果たした朝日健太郎選手から、練習を休むことなく継続することの大切さや、大きく成長するには睡眠が重要であることなどを選手の目線に立って話し、激励していただきました。選手宣誓では、名古屋市選抜主将の村瀬元基くん（平針中）と重富鈴果さん（滝ノ水中）が「全国の仲間たちとともに、ハンドボールができることを感謝しながら、あきらめない心やハツラツとした元気を届けられるように」と、東北へのメッセージも込めて大会がスタートしました。

大会は、例年通り8リーグの予選を1位で通過したチームが、決勝トーナメントへ駒を進める方式で実施されました。男子予選リーグでは、昨年に続き爆発的な攻撃力をぶつけ合う試合が多く、1試合あたりの両チーム合わせての得点平均が56.1点（1分1点以上のハイペース)。特に、Eリーグ東京都選抜と福井県選抜の試合は44対39（両チームで83得点）となるハイスコアを記録しました。予選リーグ女子では、24試合中11試合が5点差以内（そのうち1試合は同点）という緊迫したゲームが多くありました。

大会4日目からは、決勝トーナメントが行われ、頂点を目指して一層ハイレベルな試合が展開されました。女子は夏の全中を制した東京都選抜が力強い攻撃力で順当に勝ち上がり、決勝では同じ関東ブロックから勝ち上がった埼玉県選抜に後半1点差と迫られながらも、終盤怒涛の6連取で追撃をかわして、見事夏冬2冠を達成しました。男子では、同じく夏の全中を制した地元平針中学校を主体とする名古屋市選抜が、地元優勝を果たすかに注目が集まりました。しかし、夏には振るわなかった浦添中学校をはじめ県内6校から精鋭を集めた沖縄県選抜が、九州ブロック予選を5位で通過してからチーム力を大幅にアップさせて、見事6度目の優勝を果たし、大会は幕を閉じました。

3年間の愛知・名古屋開催を終えましたが、至らぬ点で多方面に渡りご迷惑をお掛けしたことと思います。そんな中、年末の慌しい時期にもかかわらず、全力を尽くしてプレーした選手や応援していただいた保護者の皆様、指導を重ねてこられたチームスタッフの皆様、大会役員や審判員、後援いただいた企業・団体・個人の皆様、県内スタッフや補助役員の中学生など本当に多くの方々の支えで、大会が大いに盛り上がり、無事終了することができたことに深く感謝しております。来年からは会場を福島県に移して大会が実施されます。全国からハンドボールを通じて多くの仲間が集い、絆を深めながら大会がますます発展し、将来の日本ハンドボール界を背負って立つ選手が多く現れていくことを願っています。

最後になりましたが、大会期間中に実施した「復興支援金」においては、みなさまのおかげで77,807円もの募金が集まりました。ご協力、誠にありがとうございました。「東日本大震災」で被害に遭われながら、以前の生活を取り戻すために日々邁進されている多くの方々の一日も早い復興を心より祈念しております。

男子優勝チーム

沖縄県選抜男子監督・東江正作

私たち沖縄県選抜は、県内6校からなるチームで構成しました。

チームテーマ、①常に100%でプレイ、②自らプレイする（自立)、チームコンセプト、①強い縦の攻めからパラレル、

クロスの判断、②常にシュートが打てる状態を作っておく、9m内でプレイさせないアグレッシブなディフェンス。オフェンスでは、オフザボールの動きからディフェンスの間を攻める強い縦の意識を強調し、コンタクトされなければカットイン、押しこんだらクロス、フォローが来れば、パラレルの状況判断トレーニングを行いました。

ディフェンスはコンパクトな60と51、42の3種類で、相手に応じて変化を求めました。九州予選1回戦の大分県戦ではシュートミスが相次ぎ33対32で敗れ、順位決定戦でかろうじて代表権を獲得しました。

敗因は、「精神的な甘さ」とはっきりしていたので、大会終了後の練習から「一切の妥協を排除する」ことを選手に求め実行。練習は、水曜日60分から90分で個人戦術、グループ戦術を行い、土･日は120分の中でスピード、スタミナ、フィジカル、グループ・チーム戦術を行いました。オン・オフの切り替えをはっきりさせることを約束とし、コートの中で100%プレイすることが徐々に浸透していきました。

60分の練習は非常にハードで休憩が1分間の2回で常時動いている状況です。100%出すことが習慣化されてきて良い傾向となり、チーム内で激しい攻防が繰り広げられるようになりました。さらに様々な状況設定から瞬間的に良い判断をするトレーニングを通し自発的に会話も出てきました。

ある程度手ごたえを感じ、11月の中旬から高校生とトレーニングマッチを行い確認・修正、発展を図りました。

高校生相手に当たり負けせず、強い縦からの攻めも威力を発揮し、スピード、スタミナも落ちなくなりました。なによりも、16人の選手がチームの戦い方を理解し、メンバーが変わってもレベルを保つことが出来るようになりました。これが、チームにとって大きなアドバンテージとなりました。

良いコンディションで名古屋に乗り込むことができ（寒さには参りました…）、予選リーグ、準々決勝、準決勝と全中準優勝、3位、そして決勝は優勝の名古屋市選抜と強豪チームで、その上相手の情報がほとんどない状況での対戦となりました。選手には「沖縄県選抜がやってきたことをどう表現するか」に全精力を傾けることを要求しました。

その結果、試合ごとにチームが熟成し、決勝では高い集中力を発揮しスタートダッシュに成功し嬉しい6度目の優勝を成し遂げることが出来ました。父母をはじめ、関係各位のご協力に感謝の念でいっぱいです。この選手達と共に戦えたことを誇りに思います。

ありがとうございました。

沖縄県選抜男子主将・下地利輝

僕達沖縄選抜は、8月に18名でチームを結成し、いきなり日本を飛び出し韓国遠征に行きました。そこでは、いろいろなチームと試合をして普段ではできない貴重な体験をすることができました。沖縄に帰ってきて正式な16名が決まり、惜しくも入れなかった2人の思いを胸に新たな一歩を踏み出しました。

そして10月の九州予選に向けて調整し、昨年に続き二連覇を目指しましたが、1回戦の大分選抜との試合で自分たちの力を半分も出せずに負けてしまいました。でも、昨年の優勝ブロック枠のおかげで、ぎりぎり全国の切符を手に入れることができました。九州大会で負けた事は自分たちにとっては逆にラッキーだったかもしれません。この悔しさをバネに、全国に向けて今まで以上に練習に力が入りました。週3回の練習は辛く地獄でしたが、お互いが支え合い、誰一人一

切の妥協をせず乗り越える事ができました。県内の高校生と練習試合を重ね､完璧な仕上がりで全国大会に出発しました。大会では、沖縄選抜としての自覚を持ち行動することを心がけ、練習してきた攻撃での「縦の強さ」を意識して試合に臨みました。予選リーグ、準々決勝、準決勝と順調に勝ち上がり、このチームで泣いても笑っても最後の試合を迎えた決勝戦では、チームで取り組んできたことがいい形で表現できたと思います。全員が出場して､一人一人の力を十分に発揮し、とても楽しくプレイすることができました。そして僕達はずっと目標にしてきた「全国制覇」を成し遂げる事ができたのです。

ここまでこれたのは、監督、コーチ、父母、これまで関わってきたすべての方々のおかげだと思っています。そして最高の舞台で最高のメンバーと最高の試合ができたことに感謝しています。長いようで短い間でしたけど、いろいろなことを学び、貴重な体験をすることができました。僕自身このチームのキャプテンができたことに誇りを持ってこれからも頑張っていきたいと思います。これまで支えてくれた皆さん、本当にありがとうございました。

女子優勝チーム

東京都選抜女子監督・尾石智洋

第20回JOCジュニアオリンピックカップ2011ハンドボール大会という節目となる記念大会におきまして、優勝することができ大変嬉しく思っております。この大会に向け、東京都では、何年も選抜の在り方や指導の仕方など、課題を持って取り組んできました。それは指導者の交流・研修、小学生・中学生・高校生の交流や合同練習、地域の活性化や応援体制の強化などです。このような取り組みが、今大会の結果に繋がったのだと思います。そして、更に2013年東京都国体に向け強化及び普及活動が充実していくことと思います。

大会では様々な強豪チームと試合を積み重ねていく中でチーム力も上がっていったと思います。そして何より、選手自ら意思を持ってコートに立てるように練習してきたことが一番であったと思います。河原畑を中心とし様々な学校の選手たちと本当の団結力を作ってくれました。仲が良く、戦う集団へと成長しました。そして、その環境を特に作っていったのが、スタッフコーチの灘先生と安藤先生と佐藤先生です。ハンドボールを愛する仲間が集まり1つの目標に向かって取りくむことが幸せだということを改めて感じさせていただきました。

決勝戦は同じ関東代表の埼玉選抜でした。大会前も一緒に練習させていただきました。お互いをよく知った中での戦いでしたが、緊張感を持ってお互いの良さを認めながら、駆け引きし、戦術を悩みつつも、楽しくハンドボールができました。

最後になりましたが、大会運営では名古屋での3年間の集大成でしたが、中谷事務局長をはじめ愛知県の方々にたくさんお世話になりました。素晴らしい大会運営ありがとうございました。東北のチームとも交流させていただき、毎日頑張っていることをたくさん聞きました。日本全国のハンドボーラーが、お互いを尊重し、お互いに切磋琢磨し、大好きなハ

ンドボールをしていることに改めて幸せを感じ、勇気をもらった大会でした。ありがとうございました。

東京都選抜女子主将・河原畑祐子

この度は愛知県名古屋市で行われた、JOCジュニアオリンピックカップで優勝出来た事を、大変嬉しく思います。私達東京選抜は16人のベンチメンバーに、2人の仲間がチームに加わり18人で戦って来ました。最初の頃は、私達の仲もポジションのコンビもうまくいかない状態でした。でも練習を重ねるうちに辛い練習も前向きに取り組むようになり、辛い時こそ笑顔で励まし合いながら練習するようになりました。そして迎えた全国大会。会場に着くと、全国大会に来たという実感が湧き、勝ちたいという気持ちがより一層高まりました。予選リーグが始まり、1試合目は愛媛選抜、2試合目は福島選抜と、戦った事のない相手に前半少し戸惑いましたが、しっかり対応する事ができ、後半にはチームみんながコートに立つ事が出来ました。そして決勝トーナメントに駒を進めました。1回戦は、細かなボールさばきなどの技術がとても高い兵庫選抜。決勝トーナメント2回戦は、山口選抜、素早い速攻で小柄ながらもダイナミックさがあるチームでした。そして迎えた決勝戦、相手はJOC関東大会の決勝で対戦した埼玉選抜で、お互いのプレーが良くわかっている中での試合でした。前半は点の取り合いで、後半も引き続き点の取り合いになるものの、相手に退場者が出て点差を広げ、そのまま勝利へと繋げることができました。仲間と共に戦ってきて最高の瞬間を味わうことができました。このような結果が残せたのは、練習を誠心誠意見て下さった尾石先生、灘先生、佐藤先生、安藤先生やスタッフの方々、色々なサポートしてくれた両親や最後までチームの為に全力を尽くしてくれた2人の仲間、応援して下さった全ての方々のおかげだと思っています。そんな人達に「優勝」という恩返しが出来て本当に良かったです。今回の経験を活かし、これからもがんばっていきたいと思います。皆さん、ご声援ありがとうございました。

戦評

▼男子決勝

沖縄県選抜　28（16–7、12–16）23 名古屋市選抜

男子決勝は地元での優勝を狙う名古屋市選抜のスローオフで始まった。立ち上がり固さの見られる名古屋に対し、沖縄県選抜はスピーディな動きで名古屋を翻弄し、7分までに6対0とした。ここで名古屋はタイムアウトを請求し、流れを止めようとする。しかし、高い位置からプレッシャーをかけてミスを誘う沖縄のディフェンスを攻めあぐみ、さらにGK⑯宮國の好セーブもあり、思うように得点が伸びない。対して沖縄は身体能力の高さを生かした攻撃を繰り返し、ペースを握らせない。⑦下地、⑮伊舎堂らの活躍で16対7と9点差で前半を折り返した。

ハーフタイムで息を吹き返した名古屋は、⑤山田暁央の活躍などで巻き返しを狙う。しかし、前半に大量のアドバンテージを得た沖縄は常に余裕のある試合運びを展開し、名古屋の追撃をかわした。結局、28対23で沖縄が6度目の優勝を飾った。

▼女子決勝

東京都選抜　25（12–9、13–9）18 埼玉県選抜

東京のスローオフで第20回大会女子決勝スタート。ファイナル独特の雰囲気の中、先制は東京都選抜⑯河原畑の7mTミドルとペースをつかもうとする。一気にゲームを決めたい東京はディフェンスシステムを5－1ディフェンスにするも裏目に。埼玉県選抜2真方のサイド、速攻などで4連取し、6対3埼玉リードとなったところで、東京タイムアウト。立て直しを図った東京、⑯河原畑の高打点からのミドルシュートを埼玉ディフェンスが対応できず、またサイド⑪大畠、③民野に得点を許し、逆転され、前半を12対9と東京リードで終える。

後半に入り、一進一退の攻防。埼玉がダブルポストから、④鈴木、⑤篠田のポストシュートを決めると、東京は⑭斗米が速攻、ポストと差を詰めさせず。ゲームが動いたのは15分、埼玉同点のチャンスを決めきれず、そこから東京に4連取を許してしまい、たまらずタイムアウト。それでも東京からペースを奪い返すには至らず、最後は東京⑧民野のシュートが決まると同時に終了。東京が第11回大会以来3回目の頂点に立った。

全日本社会人ハンドボールチャレンジ2012

大会を振り返って

全日本社会人ハンドボール連盟理事長　朝生 和光

本大会は、昨年まで「全日本実業団ハンドボールチャレンジ」として開催しておりましたが、主管の「全日本実業団ハンドボール連盟」を「全日本社会人ハンドボール連盟」へと改称した事により、本大会も「全日本社会人ハンドボールチャレンジ」と名称変更し、第1回大会（大会歴は継承）として愛知県の大同特殊鋼・大同大学体育館にて開催されました。

今回、無事第1回大会を迎えられましたのも、愛知県ハンドボール協会様ならびに、大会関係者の皆様、ご協賛頂いた企業様、他多くの方々のご尽力・ご協力の賜物であり、心から感謝とお礼を申し上げます。

今大会は初出場の大同クラブや、数年ぶりの出場となる自衛隊久里浜、高知クラブの参加もあり、昨年度より3チーム多い14チームの参加で連日熱戦が繰り広げられました。

昨年は参加11チームで全ての順位決定戦を行いましたが、今年度は参加14チームに出来るだけ多くの試合をして頂き、大会の活性化および大会を通じて強化を図る目的で、5位~13位決定戦は初日戦敗チームによるA・Bリーグ戦で決定する試合方式で実施致しました。

リーグ方式による順位決定戦へまわる事となったチームは、1日2試合のハードスケジュールではありましたが、目的どおり他チームとの親睦を深めつつ、技術向上にも繋げられたのではないかと思います。

さて、大会は各試合とも白熱した試合展開で、昨年度優勝チームのトヨタ自動車が、3回戦で八光自動車工業に敗れるなど波乱の幕開けとなり、各チーム実力伯仲の中、勝ちに拘ったレベルの高い大会であったと思います。

また、今年度は2年ぶりに「社会人連盟レフェリーコース」が本大会中に開催されました。筆記試験・体力テスト、大会中の実技試験に合格するとB級審判員の資格が取得でき、この先の審判活動の幅を広げる事が出来るため、毎回各社会人チームからの参加があります。今回も大同特殊鋼、湧永製薬から合計3名の参加がありました。このように次世代のレフェリー育成の場として本大会が活用される事は非常にうれしく思いますし、ハンドボール界発展にも大きく貢献できたのではないかと感じております。

来年度のチャレンジ大会開催地については、本年度と同様に愛知県での開催を予定しており、2年連続での開催となりますが、愛知県ハンドボール協会様の絶大なるご理解ご協力に深く感謝申し上げます。

当連盟としても、社会人ハンドボールの益々の活性化を目指し、今後もより広い範囲で参加を募り、より多くのチームが参加できる大会運営を目指しますので、関係各位のご協力を宜しくお願い致します。

優勝チームの声

（株）トクヤマハンドボール部監督・湊 勝利

2月10日～12日に愛知県名古屋市で開催された、全日本社会人ハンドボールチャレンジ2012大会において、優勝という結果を収める事ができ大変嬉しく思っています。

トクヤマは昭和48年に創部し、37年間の歴史の中で大きな転機が3度ありました。

第一の転機は、昭和59年に開催された第15回チャレンジ大会（大分）に初出場を果たし、更に上を目指して行けるチームの勢いと社内の応援態勢が整う切掛けができたことです。

その後、チームを強化し第19～27回の日本リーグ2部に在籍、チームはさらに上を目指していましたが、企業スポーツにとって大変厳しい環境が続き、リーグから撤退することとなりました。チームを離れるメンバーもいて存続すら危ない状態の中、なんとかチーム存続を残ったメンバーで決断した時が第二の転機でした。トクヤマにとって第三の転機が訪れたのは、昨年行われた山口国体に向けて優秀な選手が集まってきたことです。成年男子国体チーム（HC山口）が結成され、トクヤマの選手も選出されました。彼らが国体チームで一回り大きく成長しチームに戻って来てくれたことは大きな財産となりました。

昨年のチャレンジ大会は山口県ハンドボール協会の配慮もあり、国体に送り出した選手をトクヤマへ一時移籍させて頂き、大会では準決勝を突破し、一気に決勝の舞台へ駆け上が

ることができました。決勝ではトヨタ自動車に破れてしまいましたが、準優勝という過去最高の成績を残すことができ、大きな喜びと共に悔しい気持ちを持ち帰りました。

そして、今年の大会は国体選手もトクヤマへ復帰し、一致団結して今大会に臨みました。試合は２回戦、準決勝を勝ち進み、再び決勝の舞台へ上がることができました。決勝は過去に何度も優勝している八光自動車との対戦でしたが、選手は気迫を全面に押し出したプレーを見せてくれて幸運にも勝利することができました。

ハンドボール部創部当初からこの大会を目標に活動してきましたが、日本リーグ在籍中でも４位が最高のチャレンジ大会に、出場24回目にしてようやく優勝することができました。実に創部37年間の長い道のりでした。

これからも他の実業団、クラブなど強豪チームと競い合える常勝チームになるように部員一同努力していきたいと思います。

最後にこれまでの道のりを築いて下さった諸先輩方、ならびに支えて下さった関係者の皆様には感謝申し上げます

戦評

【3位決定戦】
トヨタ自動車　19（13－8、6－10）18　EHC

［戦評］立ち上がりトヨタ自動車が７番香井・４番岩田らの３連取でリズムをつかむが、EHCも11番宮脇の活躍でじりじりと追い上げる展開となった。前半中盤、お互い取られては取り返す緊迫したゲーム展開が続いたが、前半終盤に入るとEHCはトヨタ自動車のDFを崩す事が出来ず得点が止まってしまい、そのすきにトヨタ自動車は９番小林の２連取などで一気に試合を優位に進め、前半を13対８でトヨタ自動車が５点リードで折り返す。

後半に入りEHCが８番・父田で先制するも、負けじとトヨタ自動車は11番・倉田で得点し、このまま点の取り合いのゲーム展開で流れると思われたが、前半とは逆にリズムをつかんだEHCは、３番・亀田の連取などにより中盤で２点差まで詰め寄る。更に試合終了間際、この試合好調の11番・宮脇を中心に怒涛の追い上げを見せ、ラスト１分で１点差まで追い上げたが、ここでタイムアップとなった。

【決勝】
トクヤマ　29（14－6、15－12）18　八光自動車工業

［戦評］決勝は昨年の決勝戦で惜しくも敗れ、初優勝を逃したトクヤマと、２年振りの優勝を目指す八光自動車工業との対戦となった。

立ち上がり八光自動車は３番・長谷川の得点でリズムをつかむと思われたが、トクヤマは20番・杉本、19番・前永らの活躍により一気に４連取し、トクヤマが主導権を握る展開となった。

八光自動車は、５番・堀上、11番・高野らで得点し巻き返しを図るが、勢いのあるトクヤマは15番・保科、20番・杉本らの活躍で更に得点し、前半を14対６とトクヤマが８点リードで折り返す。

後半トクヤマが先制した事によって、このまま更に点差が広がると展開かと思われたが、ハーフタイムで意思統一を図った八光自動車は20番・山口、10番・河村らの活躍で決勝戦らしい緊迫したゲームが展開される。中盤八光自動車は11番・高野の２連取で追い上げ態勢に入るが、トクヤマも19番・前永、20番・杉本らでコンスタントに得点を重ね、主導権を譲らない。

終盤八光自動車は５番・堀上らで必死に追い上げるが、前半の点差を縮める事が出来ず、終わってみれば11点の大差でトクヤマが悲願の初優勝を飾った。

平成24年度 事業計画

1．競技力向上（強化）に関する事業

【基本方針】「アジア No. 1 になるために戦う体力強化と強靭な精神力の強化」

1．情報を共有化し各連盟、日本リーグ、地域協会との連携を取り強化組織の構築を図る。
2．NTS での指導者育成、選手発掘に再注力し、ジュニアアカデミーでの育成を図る。
3．強化委員の役責を明確にし、各カテゴリー強化施策の進行状況の把握に努める。
4．リオ対策会議の立ち上げを行う。

【重点施策】

1．アジア・世界の情報収集及び技術委員会との連携
①JISS 分析班、JHA 強化分析班と連携を図りアジア、世界対策に努める。
②各カテゴリーヘッドコーチと連携を図り栄養、体力強化の一貫指導に努める。
③各カテゴリーのチーム、個々の強化指導案を作成し推進する。
④技術委員会で情報収集し NTS と連携を図る。
2．味の素 NTC を活用したアカデミーでの教育
①専任コーチの役割分担を明確化する。
②定期的な海外遠征と国内強化合宿を実施する。
③味の素 NTC と連携を図り栄養管理の下、体力向上に努め指導及び各競技団体との連携を図る。
3．日本リーグチームとの連携強化
4．情報・科学サポート
5．医事専門委員会のサポート
6．アンチドーピングの徹底
7．リオ強化対策会議を推進し、さらなる強化体制の一本化を図る。

2．普及·指導に関する事業

≪普及関係≫

【基本方針】

1．少年チーム（U-15，U-12）の創設と小中学生大会の活性化を促進する。
2．小学校教科ハンドボールの普及と授業実践の推進を図る。
3．生涯ハンドボール体系を確立させる。

【重点施策】

1．地域における日本協会公認 J 級指導者の養成
2．少年大会運営、チーム経営の基本的理念の検討
3．研究大会充実のための授業実践者の連携
4．小中学生の基本的な指導内容の提示
5．ビーチハンドボールの組織整備と普及
6．マスターズ委員会の組織整備と普及

≪指導関係≫

【基本方針】

1．指導者の育成を推進し、研修事業を実施する。
2．海外情報収集を海外派遣選手団等より積極的に行う。
3．ブロック・都道府県指導委員会の活性化を促進する。

【重点施策】

1．公認指導者組織の整備（養成・研修）
2．U-19 までの指導体系の確立（小・中学生専門委員会との連携）
3．NTS との連携
4．大学における指導者養成の拡充
5．強化本部・技術委員会と連携し、さらなる指導者の養成を推進する。

3．競技運営に関する事業

【基本方針】

1．日本協会主催、共催大会及び国際大会の管理運営並びに改正変更に取り組む。
2．社会人連盟プロジェクトの発展を図る。
3．日本選手権構想を具体化する。
4．具体的な国体改革案を検討する。
5．競技用具、検定制度を充実させる。

【重点施策】

1．大会開催マニュアル、競技運営マニュアルの改訂、充実を図る。
2．日本協会主催大会の新設・大幅改正・スケジュール変更に取り組む。
3．競技役員の資質向上を図るため、競技役員講習会を開催する。
4．社会人連盟プロジェクトの業務を推進する。
5．協会内の国体改革の意見をまとめ、現実化する。
6．競技用具の改良、開発を図り、検定制度を充実させる。

4．競技規則（審判）に関する事業

【基本方針】

1．組織の活性化を図る
①各種委員会の活性化を図るために、委員長を中心とした計画的な取組を実践する。
②各連盟・ブロック審判長による、指導体系の確立を図る。
2．レフェリーアカデミーの実質的な運用
①JHA レフェリーコース・A/B 級公認審判員審査会との連係と体系化を図る。
②全日本学生連盟との連係と体系化の強化を図る。
③NTS・JHA ジュニアアカデミーとの連係を図る。
3．トップレフェリーの資質向上および育成
①レフェリー育成事業の実施および充実に努める。
②トップレフェリー研修会を開催する。
③各カテゴリーの代表チーム合宿に極力参加する。
④日本リーグを吹笛できる若いレフェリーを育成する。

4．競技規則の正しい運用
①「審判員の目標」を徹底させる。
②国際事情の分析および伝達を迅速に行う。
③競技規則必携およびDVD（解説書）を発行する。
5．IHFレフェリー講習会への参加

【重点施策】
1．審判委員会の組織の活性化を図る
各種委員会が活動するにあたり、マネジメントサイクル（PDCA）を活かす。また、目標設定、中間評価、最終評価し報告書を作成する。
2．レフェリーアカデミーの推進
日本リーグ、社会人、大学、高校、中学等の各連盟にご理解とご協力を得ながらレフェリーアカデミーをさらに体系化する。
各全国大会においてレフェリーアカデミー生が吹笛する機会を設定する。
3．レフェリーアカデミーを卒業したレフェリーの積極的な起用と女子レフェリーの育成および全国大会へのノミネート
4．レフェリー講習会の内容充実と競技規則の正しい運用
レフェリーのみならずトレーナー、選手に正しいルールを理解してもらうことが必要であり、各地区のレフェリー講習会にトレーナー、選手の参加を働きかける。
5．IHFレフェリー講習会への参加準備
コンチネンタルレフェリーの育成と併せ、国内レフェリーにも最新の国際情報を提供する。

5．総務に関する事業

【基本方針】
新公益財団法人への平成25年度移行に向けての活動推進、ならびに業務の効率化を行い、円滑な事業執行と事業進捗のスピード化を図る。また、創立75周年記念事業について他部門と協力し推進。

【重点施策】
1．新公益財団法人への平成25年度移行に向けた対応
2．円滑な事業推進に向けた業務の効率化
3．環境保全活動の実践活動の継続
4．個人情報保護法の遵守と徹底
5．創立75周年記念事業の企画
6．事務局業務の整備・充実

6．国際に関する事業

【基本方針】
1．世界各国のハンドボール連盟との連携を図り国際貢献に努める。
2．日本ハンドボール協会および各連盟、チームなどへの国際的活動支援を行う。
3．国際大会等の支援（連絡・交渉・情報収集）を行う。
4．国際会議への参加と支援を行う。

【重点施策】
1．IHF・AHF・EAHF臨時総会など出席とその連携
* IHF管理のもと、公平な運営と公平なジャッジメント監視管理継続
2．各国連盟とのレターのやり取り強化
3．レフェリー・テクニカルデレゲート・レクチャラーなど派遣とサポート
4．日本代表チームなどの海外国際大会派遣などの事務的なサポート
5．国際会議並びに世界選手権等の国際試合への参加及び情報収集
6．外国の情報収集とその活用
7．海外移籍の事務的サポート
8．次世代の国際担当者の発掘育成継続

7．財務･会計に関する事業

【基本方針】
引き続き平成24年度も財政状況を取り巻く環境は非常に厳しく、収入源を見据えた予算執行を確実に実行しなければならない。収入面においては、マーケティング委員会を中心に、協賛活動や支援獲得活動に取り組む。また各種補助金助成金については、今以上に有効活用を図る。支出面では、各事業部において事業収入を考慮にいれた展開を依頼し、効率の良い事業運営を推進して行かなければならない。

【重点施策】
1．適正な予算配分と管理の徹底
2．マーケティング委員会を中心とした各種運営費の積極的な財源確保
3．各種補助金助成金の積極的活用

8．広報に関する事業

≪広報事業≫

【基本方針】
1．注目度アップ、バリューアップに繋がる情報の発信を図る。
2．インターネット情報の充実・拡大を図る。
3．マスコミとの交流を拡大する。
4．協会事業の周知徹底を図る。
5．協会広報のスムーズな運営を図る。
6．記録整備のため大会撮影を積極的に行う。
7．創立75周年記念事業の広報を行う。

【重点施策】
1．ホームページの充実
2．マスメディアへの積極的情報発信
プレスリリース・記者発表・記者会見・定期懇談会の実施、回数アップ
3．インターネットと機関誌の連携強化、整備効率化
4．トップリーグ連携機構との連携活動
5．過去の記録のデーターベース化
6．組織の充実（人材確保および担当者の複数化･役割分担）
7．企画、マーケティングとの連携によるバリューアップ活動の推進
8．各部門と連携し創立75周年記念事業の企画推進

≪インターネット≫

【基本方針】
1．日本協会より発信すべきハンドボール情報を、インターネットを通じてタイムリーに発信する。

2.インターネットを活用した情報提供の充実を図るとともに、作業の効率化・スピードアップを図る。
3．新たな情報発信・円滑な運用のための体制づくりを確立する。
4．ウェブページのデザイン等を更新する。
【重点施策】
1．日本協会ホームページの充実
①代表チームの情報発信の内容充実を図る。
②試合結果等の情報発信のスピードアップと内容の充実を図る。
③試合結果速報用掲示板を運用する。
④新たな情報発信方法の検討と試行を行う。
2．ホームページ等、円滑な運用のための体制づくり・人材等の補強を実施する。

9．機関誌発行に関する事業

【基本方針】
機関誌発行を通じ、都道府県協会・各連盟等日本協会組織全体の情報共有化を図る。更には活動履歴の保管性を提供し、ハンドボールの指導・普及等の活動関係者に様々な関連情報を提供することにより、ハンドボール界の一層の発展に寄与する。
【重点施策】
1．施策方針・理事会・各委員会組織からの情報発信の場として、更に、都道府県協会からの情報発信の場として、機関誌の効果的な利用を追及する。
2．インターネット情報との密接な連携を図り、相互の情報の質を高めることで掲載内容の役割分担を図る。
3．大会報告記事では、単に報告にと留まらず大会にまつわる様々な状況など、大会周辺の様子にも着目した掲載を図る。
4．機関誌のあり方・掲載内容については適宜見直しを図り、常に機関誌の役割と特徴を意識した運営に努める。
5．年間発行回数の検討を行い実行する。

10．企画に関する事業

【基本方針】
1．日本ハンドボール協会の中期課題を抽出し、方向性を示す。
2．各本部、各プロジェクトとの連携を図り、統合して活動できる環境を整える。
【重点施策】
1．最大目標である強化の充実・整備（奨学金制度・強化システム・日本リーグ連携）
2．ジャパンカップ2012in豊田の企画開催
3．創立75周年記念事業を企画立案・実施

11．マーケティングに関する事業

【基本方針】
1.ハンドボールが持っているあらゆるバリューの創出を図り、日本協会の行う事業の中で実施する。
2．日本協会の収入の大きな柱となるマーケティング収入の確保・拡大を図る。
【重点施策】
1．マーケティング収入目標2,500万円
①オフィシャルスポンサー、オフィシャルサプライヤーの確保と拡大
②大会協賛金の確保
③ナショナルユニフォーム広告、他
④物品販売
2．既協賛企業はもとより新規協賛企業の開拓拡大
3．各種イベントの企画（ハンドボールマンゴルフ大会・スポンサー感謝の集い他）
4．日本協会75周年記念事業の企画
5．オリジナルグッズ、DVD他の企画・販売
6．協会主催大会及び各都道府県・各連盟に対するマーケティング活動の指導並びに、協賛パートナーの拡大・協力
7．JOC、トップリーグ連携機構との連携・協力によるマーケティングの向上

12．日本リーグに関する事業

【基本方針】
1．財政基盤の強化を図る。
2．リーグ戦の活性化とレベルアップを図り、東アジア諸国との交流を通じ、国際競技力向上に寄与する。
3．地域と共に発展する日本リーグを目指す。
4．ハンドボール普及活動へ積極的に参加する。
5．日本リーグ中期ビジョンを具体化する。
6．メディア対策を更に充実させる。
【重点施策】
1．新規スポンサーの獲得、拡大
2．スポンサー企業へのさらなるサービスの充実
3．日本リーグ参加チーム拡大のため、クラブチームの指導・育成
4．チャレンジディビジョンの充実、拡大
5．ホームゲームの充実と地域との連携強化（開催地責任者・GM研修会の実施）
6．試合開催地におけるハンドボール教室の積極的開催
7．トップコーチ、トップレフェリー育成のための研修会実施
8．新たなファンサービスの開発
9．積極的なメディア対策の実施（プレスリリース、話題提供、情報交換会の実施）
10．日本トップリーグ連携機構諸事業への協力と他競技との連携
11．リーグ選手の海外留学（派遣）制度の検討委員会設置

13．『がんばれ20万人会』サポート会員に関する事業

【基本方針】
「ハンドボール界総力をあげての日本代表応援」「ハンドボールのバリューアップ」という本来の目的を踏まえ、サポート会員の拡大、拡充を図ると共に、各連盟、各都道府県協会との連携を図り、20万人を目指す。
【重点施策】
1．各連盟、各都道府県協会との連携強化による会員加入促進
2．会員への情報、サービスの拡充
3．会則、諸条件の見直し・充実

平成 24 年（2012 年）度　ハンドボール国内・国際大会日程

	大会名	開催日程（競技日）	開催地	開催場所
4月	※第 30 回オリンピック競技大会男子世界最終予選	4/6（金）－ 4/8（日）	スペイン、スウェーデン、クロアチア	男子 N
	※第 9 回東アジアクラブ選手権（男・女）	4/20（金）－ 4/22（日）	日本・福井市	福井県営体育館（JHL 男女優勝チーム）
	※東アジア連盟総会	4/21（土）	日本・福井市	
5月	※第 30 回オリンピック競技大会女子世界最終予選	5/25（金）－ 5/27（日）	フランス、スペイン、デンマーク	女子 N
6月	※ジャパンカップ 2012	6/8（金）－ 6/10（日）	愛知県・豊田市	スカイホール豊田
	※第 3 回アジアビーチゲームズ	6/16（土）－ 6/22（金）	中国・海陽	
	※世界学生選手権	6/21（木）－ 7/1（日）	ブラジル・ブルメナウ	学生
	※第 5 回男女ビーチハンドボール世界選手権	未定	クロアチア・	不出場
	日体協公認コーチ養成講習会（専門科目）	未定	東京都・北区	味の素ナショナルトレーニングセンター
7月	※第 18 回女子ジュニア世界選手権	7/1（日）－ 7/15（日）	チェコ・	女子ジュニア（U-20）
	高松宮記念杯第 2 回全日本社会人選手権	7/4（水）－ 7/8（日）	宮城県・仙台市	グランディ２１（宮城県総合運動公園）
	※第 13 回男子ジュニアアジア選手権	7/5（木）－ 7/15（日）	未定	男子ジュニア（U-21）
	第 32 回全国クラブ選手権大会・東	7/14（土）－ 7/15（日）予定	福島県・本宮市	本宮市総合体育館・本宮体育館・本宮高等学校体育館
	※第 17 回ヒロシマ国際大会	7/19（木）－ 7/22（日）	日本・広島市	東区スポーツセンター
	第 32 回全国クラブ選手権大会・西	7/21（土）－ 7/22（日）	山口県・周南市	キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター
	※第 30 回オリンピック競技大会	7/27（金）－ 8/12（日）	イギリス・ロンドン	ハンドボールアリーナ（オリンピックパーク内）
	高松宮記念杯第 63 回全日本高校選手権大会	7/29（日）－ 8/3（金）	新潟県・柏崎市、上越市、刈羽村	柏崎市総合体育館、柏崎市西山総合体育館、新潟県立柏崎高校体育館、リージョンプラザ上越、上越市柿崎総合体育館、刈羽村生涯学習センターラピカ
	第 15 回ハンドボール研究集会	7/30（月）－ 7/31（火）	未定	
8月	第 25 回全国小学生大会	8/3（金）－ 8/5（日）	京都府・京田辺市	京田辺市田辺中央体育館、同志社大学体育館、田辺高校体育館
	第 20 回全日本マスターズ大会	8/3（金）－ 8/5（日）	愛知県・豊田市	スカイホール豊田他
	東日本学生選手権大会	8/9（木）－ 8/11（土）	秋田県・湯沢市	湯沢市総合体育館、湯沢高校体育館
	第 17 回ジャパンオープントーナメント（男女）東京国体リハーサル大会	8/10（金）－ 8/13（月）	東京都・墨田区、新宿区、品川区、武蔵村山市、多摩市	墨田区総合体育館、新宿スポーツセンター、品川区総合体育館、武蔵村山市総合体育館、多摩市立総合体育館
	西日本学生選手権大会	8/11（土）－ 8/15（水）	京都府・宇治市、京田辺市	京都府立山城総合運動公園（太陽が丘）体育館、同志社大学京田辺校地デーヴィス記念館
	※第 4 回女子ユース世界選手権	8/16（木）－ 8/26（日）	モンテネグロ・	女子ユース（U-18）
	NTS ブロックトレーニング		各ブロック	
	第 41 回全国中学校大会	8/19（日）－ 8/22（水）	茨城県・常総市、守谷市、坂東市	常総市水海道総合体育館、守谷市常総運動公園体育館、坂東市岩井体育館
	※第 4 回日韓小学生親善交流（派遣）	未定	韓国・	小学生
	第 39 回全国高等専門学校選手権大会	8/20（月）－ 8/22（水）	広島県・呉市	呉市総合体育館（オークアリーナ）
	※第 20 回日韓中ジュニア交流大会	8/23（木）－ 8/29（水）	韓国・光州広域市	高校生
	第 14 回全日本ビーチハンドボール選手権大会	8/25（土）、8/26（日）	兵庫県・神戸市	神戸アジュール舞子浜
	※第 5 回男子ユースアジア選手権	8/26（日）－ 9/6（木）	未定	男子ユース（U-19）
9月	第 37 回日本リーグ	9/1（土）－	各地	
	※第 16 回日韓スポーツ交流（派遣 / 女子）	未定	韓国	
	※日韓スポーツ交流（受入 / 男子）	未定		
	※第 16 回日韓スポーツ交流（受入 / 女子）	未定		
10月	第 67 回国民体育大会	10/5（金）－ 10/9（火）	岐阜県・高山市、飛騨市、下呂市	飛騨高山ビッグアリーナ、高山市立中山中学校体育館、飛騨・世界生活文化センター、桜ヶ丘体育館、下呂市交流会館
	※日韓スポーツ交流（派遣 / 男子）	未定		
11月	高松宮記念杯男子 55 回女子 48 回全日本学生選手権	11/14（水）－ 11/18（日）	福岡県・福岡市	福岡市民体育館他
	※第 15 回アジアクラブリーグ	未定		
	第 10 回日本車椅子競技大会	11/17（土）、18（日）	滋賀県・彦根市	彦根市民体育センター
12月	※第 14 回女子アジア選手権	12/3（月）－ 12/13（木）	未定	女子 N
	第 64 回全日本総合選手権大会	12/19（水）－ 12/23（日）	大阪府・大阪市	大阪市中央体育館
	第 21 回 JOC ジュニアオリンピックカップ	12/24（月）－ 12/28（金）	福島県・福島市	県営あづま総合体育館、福島市国体記念体育館
1月	NTS センタートレーニング（高校生）	1/4（日）－ 1/6（日）予定	東京都・北区	味の素ナショナルトレーニングセンター
	NTS センタートレーニング（中学生）	1/12（土）－ 1/14（月）予定	東京都・北区	味の素ナショナルトレーニングセンター
	※第 23 回男子世界選手権	1/13（日）－ 1/27（日）	スペイン・	男子 N
2月	全日本社会人チャレンジ 2013	未定	未定	未定
3月	第 37 回日本リーグプレーオフ	3/9（土）、3/10（日）	東京都・世田谷区	駒沢体育館
	第 8 回春の全国中学生選手権大会	3/23（土）－ 3/27（水）	富山県・氷見市	氷見市ふれあいスポーツセンター、県立氷見高校体育館、旧県立有磯高校体育館
	第 36 回全国高校選抜大会	3/25（月）－ 3/30（土）予定	静岡県・袋井市、浜松市	小笠山運動公園エコパアリーナ、同サブアリーナ、浜松アリーナ（予定）

2012.02.29 現在　※は国際大会

競技規則の改訂・確認について

平成24年2月18日
競技本部長　江成　元伸

競技規則の確認、及び、その他の確認
（平成24年4月1日実施）

国際ハンドボール連盟から、「IHF　2011　競技規則の解釈」の通達が送付されました。日本協会は、IHFが定めた事項以外に、各国ハンドボール協会が追加することができるとされた事項、及び、日本協会独自の国内規則を定め、通知します。また、それ以外の事項についても通知しますので、各組織に対して周知徹底をよろしくお願いします。この確認の内容は、平成24年4月1日から実施します。

記

1　IHF　2011　競技規則の解釈

次頁資料の通知通り、実施する。

2　ハーフタイム（競技規則2：1）

国内では、原則として従来通り10分とする。テレビ放映、その他の理由により大会規定として、最長15分までのハーフタイムを取ることができる。

3　チームタイムアウト（競技規則2：10）

IHFの通達通り、3回請求できることとする。チームタイムアウト請求カードは、競技規則通りのサイズとする。

4　選手出場人数（競技規則4：1）

16名までを認める。日本協会では従来、連盟、大会ごとに選手出場人数は規定してよいとしていたことから、15名以下でもよい。なお、平成24年度全日本総合選手権は16名の参加申込み、ゲームエントリーも16名編成とする。ジャパンオープンは国体リハーサル大会なので、リハーサル大会は本国体の参加人数を上回らない規模で実施するという日本体育協会が定める規程を遵守するため、大会参加申込みは16名、ゲームエントリーは14名で実施する。

5　平成23年4月1日付競技本部長通達「平成23年度競技運営に関する通達について」の再確認

下記事項は通知済みであることから、各団体はその趣旨を遵守するよう、特に確認する。

1）大会裁定委員会について

平成22年度大会開催マニュアルで、大会裁定委員会は「大会期間中の出場停止を超える処分が必要な場合は、大会主催団体の定められた会議において審議し、処分を審議する。さらに、加盟団体の処分の範囲を超える場合は、本協会の懲罰委員会に提訴する。」と規定している。

裁定委員会として、処分の範囲を超える裁定をしないよう留意されたい。

2）試合中のチーム役員、選手の発言、態度、行為について

試合中、チーム役員、選手による技術的・戦術的指示等は認められるが、技術的・戦術的な指示であっても度を超した発言、態度、行動は許されない。目に余るスポーツマンシップに反する行為に審判員が直接気がつけば、審判員が罰則を適用する。審判員が気がつかないときは、マッチバイザー、TDから審判員に知らせ、審判員が罰則を適用する。審判員、TDは毅然とした態度で公平に判定するよう、再度確認する。

6　パワー（サイクリング）パンツ、アンダーシャツの着用について

平成24年度は、パワーパンツを着用する場合は、競技規則通り短パンツと同色であるか、短パンツと色の異なるパワーパンツを着用する場合は、チーム全員が同じ色のパワーパンツを着用しなければならない、と改正する。アンダーシャツの着用も同様で、ユニホームの色と同色のアンダーシャツを着用しなければならない。色の異なるアンダーシャツを着用する場合は、チーム全員が同じ色のアンダーシャツを着用しなければならない。

7　マッチバイザーの任務、平成24年4月1日改訂版の発行

マッチバイザーの任務、平成24年4月1日改訂版を発行した。
（委細は、日本協会HPを参照下さい）

8　7ｍスローコンテスト登録・記録用紙

7ｍスローコンテスト登録・記録用紙を作成した。
（委細は、日本協会HPを参照下さい）

9　選手変更について

国体は従来通り国体要項に従い、監督・代表者会議の前日までに証明書添付で変更手続きを行う。その他の大会は、代表者会議前までに選手変更届を提出する。理由は明記するが、その内容は問わないので証明書の提出は必要ない。

平成24年2月18日
競技本部・理事会資料

2011競技規則の解釈に関する通達

IHFから2011競技規則の解釈に関する通達として、最終的だと断りがついた文書が送付された。下記に記したこの解釈の適用は、平成24年4月1日から実施する。IHFから送付された項目はすべて記載した。その中で、IHFの解釈通り適用する内容、一部、強化部だけが国際試合にだけ適用する内容、そして、日本協会独自の国内規則とする内容として、原文だけではなく、一部、日本協会としての補足説明を加えた文章にした。

プレーヤーとチーム役員の役割変更（4：1～4：2）

IHFは、試合前に提出するメンバー表に、プレーヤーとチーム役員が同時に登録されていてはいけないと規定している。ただし、チーム役員、もしくは、プレーヤーに登録人数に余裕があるときは、プレーヤーからチーム役員に、または、チーム役員からプレーヤーに種別の移動をさせることができる。また、一度移動させた場合には、その試合中は最後まで、その役割でなければならない。登録変更しても個人の罰則はそれぞれ追加される。国際試合は、この内容が適用される。

日本協会は、上記のプレーヤーとチーム役員が同時に登録されてはいけないという内容を採用せず、従来通り、プレーヤーとチーム役員の兼任を認める。

プレーヤーの交代（4：4）

競技の中断中、負傷したプレーヤーは、交代地域や更衣室を含むその他の場所での治療を受けるために、交代ラインを通らなくてもよい。従来通りの解釈である。

なお、時間短縮のため、レフェリーは負傷したプレーヤーがコートから出る前に、代わりのプレーヤーをコート内に入れておくべきである。

顔面・膝のプロテクター（4：9）

IHFは、顔面や頭部のプロテクターの着用は、いかなる大きさのどんなものでも禁止している。しかし、日本協会は国内規則として従来通り、危険の恐れのないものに限り、また、顔面の表情が読み取れるものであれば、競技委員長の使用許可を得た上で着用を認める。

膝のプロテクターは金属が露出するなど、自身及び相手に危害を及ぼす可能性のあるものであってはならない。顔面プロテクターと同様に、日本協会は国内規則として従来通り、危険の恐れのないものに限り、使用許可を得た上で着用を認める。

松ヤニ（4：9）

松ヤニを靴に付けておくことは許されているが、手や手首に松ヤニを貯えておくことは許されない。従来、日本協会は、松ヤニを靴につけておくことを禁止していたが、松ヤニを使用できる施設が少ないこと、コートから出る際の靴に松ヤニをつけた処理を各チームが責任をもって対処することにして、松ヤニを靴につけてプレーすることを許可する。なお、大会ごとに、主催団体はその旨明記して、松ヤニを靴につけておくことを禁止することができる。

負傷者の救護（4：11）

コート内で負傷者が出た場合、レフェリーやＴＤは、プレーヤーまたはチーム役員として登録してある者に、コート内への入場許可を与えることができる。

ゴールキーパーの負傷

ゴールキーパーが、ボールがぶつかり、負傷してプレーを続行できなくなったときの適用。

ａ）ボールがサイドラインを通過した、アウターゴールラインを通過した、ゴールエリアに転がるか止まったとき。
　適用：直ちに競技を中断する。サイドラインを通過したときは、スローイン、アウターゴールラインを通過し

たかゴールエリアに止まったとき、ゴールキーパースローで再開する。

b）ボールがサイドラインを通過する前、アウターゴールラインを通過する前、ゴールエリアに転がるか止まる前にレフェリーが中断したとき。

適用：結果が出るまで吹笛するべきではないが、サイドラインを通過することが予測できるときは、スローインで再開する。アウターゴールラインを通過するかゴールエリアに止まることが予測できるときは、ゴールスローで再開する。

c）ボールがゴールエリアの空中にあるとき

適用：どちらかのチームがボールを所持するまで１、２秒待ち、ボールを所持しているチームのフリースローで再開する。

d）ボールがまだ空中にあるときにレフェリーが笛を吹いた場合

適用：結果が出るまで吹笛するべきではないが、状況に合わせて、最後にボールを所持していたチームのフリースローで再開する。補足説明するとすれば、ルーズボールをどちらのチームが取ることが予測できるかという観点から判断する。

e）負傷してプレーできない状態から攻撃側プレーヤーにリバウンドが返ったとき。

適用：競技を中断し、攻撃側チームのフリースローで再開する。

注：このような場合に７ｍスローの判定をしてはならない。競技規則 14:1b「明らかな得点チャンスの際に、不当な笛が吹かれたとき」には該当しない。

ステップ　足を引きずり寄せること（７：３）

競技規則ではこの文言は使ってないが、足を引きずり寄せたときは一歩と見なさない、という解釈は変わらない。

ステップ　ドリブルの始まり（７：３）

空中でボールを受け取り、その後に着地した最初の足は一歩とみなさない。「ボールをキャッチする」とは「パスを受け取る」という意味であり、ドリブルしたボールを空中でつかむことは、「ボールをキャッチする」こととはみなさない。ドリブルした後、最初に下ろした足は例外なく歩数とし、１歩目と数える。

不正入場・不正交代をしたプレーヤーや役員による妨害（８：５、８：６、８：９、８：10）

a）明らかな得点チャンスの際、不正入場でプレーヤーがコートに入り妨害した。

適用：７ｍスローとし、報告書を伴う失格とする。

b）不正交代があり、明らかな得点チャンスの際にタイムキーパーや TD が笛を吹いた。

適用：７ｍスローとし、２分間退場とする。

c）明らかな得点チャンスの際、チーム役員がコートに入った。

適用：７ｍスローとし、報告書を伴う失格とする。

d）明らかな得点チャンスではないとき、チーム役員がコートに入った。

適用：フリースローとし、段階的罰則とする。

報告書を伴う失格の後のさらなる処置（８：６、８：10）

「追放」が「報告書を伴う失格」に変わった。競技規則８：６と８：10による罰則と競技規則８：５と８：９報告書を伴わない失格は競技中の結果としては同じで、どちらも２分後にコート上のプレーヤーの数を戻せる。

競技の終了後に報告書が提出されたとしても、あるいは提出されなかったとしても、その状況に応じて当該機関の裁定委員会は、審議の上、裁定を決定する。

報告書を伴う失格の基準（８：５、８：６）

以下の基準は競技規則８：５と８：６を区別するものであり、報告書を伴う失格の基準を示す。

a）あまりに無謀な行為

・相手に激しく襲いかかる、またはそれに類する行為

・思慮に欠ける冷酷で無責任な行為

・激しく相手を叩く行為

・悪意のある行為

b）あまりに危険な行為

・無防備な相手への攻撃

・相手の健康を傷つける恐れがとても大きい行為

c）計画的に行われた行為

・わざと悪意ある行為を犯す

・相手を傷つけることのみを目的として相手の身体に意図的に何かする行為

d）悪意ある行為

・無防備な相手への卑劣な行為や見えないように行う行為

e）競技の状況とかけ離れた意図的で悪質な行為

・ボールとかけ離れたところで起こった行為

・ゲームの戦術と関係ない行為

唾を吐く（８：９、８：10）

唾を吐くという行為は、相手に襲いかかるのに近い行為であると考えられ、報告書を伴う失格としなければならない。唾がかかるとかかからない事実は、裁定結果に大きな影響を与える。唾がかかった状態は重大な罰則を適用する。

3ｍの距離の確保（8：10c）

競技の終了間際にスローが行えないように３ｍ以内にいて、スローを妨害するような行為は、報告書を伴う失格としなければならない。

競技の終了間際の失格（8：10d）

競技の終了間際に、相手の得点を妨害するという目的でプレーヤーが競技規則8：５や8：６に該当する違反をしたときは、報告書を伴う失格としなければならない。

ゴールキーパーが、8の5（a）に伴う違反で、相手に危害を及ぼすような行為にとして、ゴールエリアを離れ、プレイングコート上で失格となっても、通常は報告書を伴う失格としない。

失格となったプレーヤー・役員（16：8）

失格となったプレーヤー・チーム役員は直ちにコートや交代地域から去らなければならず、その後チームといかなる接触もしてはならない。競技の再開後、失格となったプレーヤー・チーム役員のさらなる違反を認めたときは、報告書を作成しなければならない。さらなる違反があっても、コート上のプレーヤーを減らすことはない。失格となったプレーヤーがコート内に入った場合も、コート上のプレーヤーを減らすことはない。

改訂

ハーフタイムについて（2：1に追加された分）

IHF大会、大陸連盟大会、または国内大会において、主催者の権限でハーフタイムの時間を決定できる。しかし、ハーフタイムの最長時間は15分までとする。

チームタイムアウトの回数

IHF大会、大陸連盟大会、または国内大会において、主催者の権限で1分間のチームタイムアウトの申告回数を決定できる。しかし、その回数は最高３回までであり、かつ前半、後半（延長戦は除いて）それぞれにおいて最高２回までとする。

競技規則解釈　3

IHF大会、大陸連盟大会、または国内大会において、各チームは最高３回のチームタイムアウトの請求ができる。ただし、延長戦は含まれない。請求できるのは前半、後半それぞれ最高２回までである。それぞれの前後半で２回のチームタイムアウトを請求する場合、1回目と２回目の間には、必ず相手チームがボールを所持する時間帯が必要となる。３枚のグリーンカードが必要となる。それぞれのカードには1、2、３と番号をつけ、明確にしておく。前後半に最高２回までしか請求できないことから、前半には、１と２の番号がついてあるカードを、後半は2、３の番号がついてあるカードを各チームに配布する。前半1回も使用していないチームからは、1のカードを回収する。また前半に２回使用したチームには、３のカードのみを配布する。

試合の後半残り5分間は、1回のチームタイムアウトしか請求できない。

プレーヤーの人数

IHF大会、大陸連盟大会、または国内大会において、主催者の権限で登録プレーヤーの人数を決定できる。しかし、最大16名までとする。

競技規則17：11　第１段落の修正

レフェリーとTDの事実観察や判断に基づく判定は、最終的なものである。

改訂に伴う2010年版競技規則問題集の解答、および関連条項の訂正

問題集番号　71　　解答をａに訂正

問題集番号 302　　解答の関連条文を7．B．ａに訂正

ロンドンオリンピック予選について

〈男子〉*参加12ヵ国

◎オリンピック開催国…イギリス
◎2011年世界選手権1位…フランス
◎各大陸代表…アジア:韓国、パンアメリカ:アルゼンチン、アフリカ:チュニジア、ヨーロッパ:デンマーク
◎世界最終予選…2012年4月6～8日(各グループ内でリーグ戦(総当たり)を行い、上位2ヶ国が出場権を獲得する。)

予選会1(開催地:スペイン)	予選会2(開催地:スウェーデン)	予選会3(開催地クロアチア)
*スペイン(WC3位)	*スウェーデン(WC4位)	*クロアチア(WC5位)
*ポーランド(WC8位)	*ハンガリー(WC7位)	*アイスランド(WC6位)
セルビア(ヨーロッパ1)	ブラジル(パンアメリカ1)	**日本(アジア)**
アルジェリア(アフリカ)	マケドニア(ヨーロッパ2)	チリ(パンアメリカ2)

*印は2011年世界選手権(WC)により決定。

〈2011年世界選手権順位〉

1位:フランス、2位:デンマーク、3位:スペイン、4位:スウェーデン、5位:クロアチア、6位:アイスランド、7位:ハンガリー、8位:ポーランド、9位:ノルウェー、10位:セルビア、11位:ドイツ、12位:アルゼンチン、13位:韓国、14位:エジプト、15位:アルジェリア、16位:日本、17位:スロバキア、18位:オーストリア。……

●世界最終予選の日本の対戦相手と直近の戦績

クロアチア	2011年1月の第22回世界選手権5位 (日本は16位:対戦なし) 2005年1月の第19回世界選手権での対戦結果 (日本 25-34 クロアチア) (日本は16位、クロアチアは2位)
アイスランド	2011年1月の第22回世界選手権での対戦結果 (日本 22-36 アイスランド) (日本は16位、アイスランドは6位)
チリ	2011年1月の第22回世界選手権22位 (日本は16位:対戦なし) 2005年1月の第19回世界選手権出場せず

〈女子〉*参加12ヵ国

◎オリンピック開催国…イギリス
◎2011年世界選手権1位…ノルウェー
◎各大陸代表…ヨーロッパ:スウェーデン(※1)、アジア:韓国、パンアメリカ:ブラジル、アフリカ:アンゴラ
◎世界最終予選…2012年5月25～27日(各グループ内でリーグ戦(総当たり)を行い、上位2ヶ国が出場権を獲得する。)

予選会1(開催地:フランス)	予選会2(開催地:スペイン)	予選会3(開催地:デンマーク)
*フランス(WC2位)	*スペイン(WC3位)	*デンマーク(WC4位)
*モンテネグロ(WC10位)	*クロアチア(WC7位)	*ロシア(WC6位)
ルーマニア(ヨーロッパ1)	アルゼンチン(パンアメリカ1)	チュニジア(アフリカ)
日本(アジア)	オランダ(ヨーロッパ2)	ドミニカ共和国(パンアメリカ2)

*2010年ヨーロッパ選手権により決定。

〈2011年世界選手権順位〉

1位:ノルウェー、2位:フランス、3位:スペイン、4位:デンマーク、5位:ブラジル、6位:ロシア　7位:クロアチア、8位:アンゴラ、9位:スウェーデン、10位:モンテネグロ、11位:韓国、12位:アイスランド、13位:ルーマニア、14位:日本、15位:オランダ。……

●世界最終予選の日本の対戦相手と直近の戦績

フランス	2011年12月の第20回世界選手権2位 (日本は14位) 予選リーグ対戦 (日本 22-41 フランス)
モンテネグロ	2011年12月の第20回世界選手権10位 (日本は14位:対戦なし)
ルーマニア	2011年12月の第20回世界選手権13位 (日本は14位) 予選リーグ対戦 (日本 28-28 ルーマニア)

SCIENCE AND ANALYTICAL EXPERTISE IN HANDBALL 2011 傍聴記

東京理科大学理工学部　市村志朗

2011年11月18日、19日の2日間行われましたSCIENCE AND ANALYTICAL EXPERTISE IN HANDBALL（EHFとUnion of University Handball Teachers（UUHT）主催）に参加しましたので報告いたします。

このSCIENCE AND ANALYTICAL EXPERTISE IN HANDBALLという会議は、European Handball Federation（EHF）の20周年記念としてウィーンにて開催されたHeartBeat Handballの1事業として、ハンドボールにおける科学と実践との間（研究者と現場コーチとの間）に存在するギャップを橋渡しすることと、すべての組織（男女、ユース、ビーチ、ストリート、ホイールなど）でのハンドボールに存在する問題を提起・解決することを目的として行われました。会議は、Chairman of EHF Methods CommissionであるDr. Frantisek Taborskyの基調講演 'Phenomenon Handball' からスタートしました。この基調講演では、ハンドボールの起源からその進歩の過程をたどることで、現在およびこれからのハンドボールの教育・普及・強化についてのあり方について講演がなされました。その後、心理学、社会学、教育学などの学問領域とした 'Humanities'（21演題）、バイオメカニクス、体力学、運動生理学などを中心とした 'Natural Sciences'（23演題）、トレーニング科学、ゲーム分析に焦点を当てた 'Training and the Game'（22演題）の3つのセッションに分かれ、多くの研究発表が行われました。参加者は16カ国（ヨーロッパ以外の参加は日本のみ）おおよそ80名であり、日本からの参加者は、駒澤大学の村松誠先生、鹿児島大学の森口哲史先生、筆者の3名でありました。

これら3つのセッションは同時進行で行われていたため、すべての研究発表を傍聴することはできず、筆者は自身の専門学問領域に関連する 'Natural Sciences' と 'Training and the Game' のセッションを中心に多くの研究発表を傍聴しました。そこで、ヨーロッパでのハンドボールに関する研究手法、研究内容、研究水準は、日本のハンドボール研究者がおこなっているものと大きな差はないということを感じました。しかし、1点だけ重要なことが日本のハンドボール研究と大きく異なっておりました。それは、発表で示されるデータのほとんどは、国の代表選手やその国のトップリーグに所属する選手のものであるということでした。このことから、ヨーロッパのハンドボールでは、日本よりも科学と実践との距離は近いのであろうと感じました。

また、発表された後の議論では、発表されたデータを用いて、個人やチームをよりよくするためにはどのようにすれば良いのか、これらのデータをどのように現場へ繋げていくのかといったことに多くの時間が費やされていました。筆者も「アジアのチームとヨーロッパのチームのシュート位置とシュートコースの違い」についての発表を行いましたが、その時の議論中心は、研究からでてきた結果の意味をどのように実践の場へ伝えるのか。また、その結果を踏まえて、日本のシュートを改善するためには、どのようなtrainingやpracticeをする必要があるのかをコーチ陣と一緒に考えることの重要性についてでありました。これらのことから、ヨーロッパのハンドボール研究者達は、本会議の目的でもありますように、ハンドボールにおける科学と実践との間（研究者と現場コーチとの間）に存在するギャップを小さくすることを非常に重要視し、そのことを実践していることがよく感じられました。「Handball is not science but science can improve handball」、ある発表者が使っていた言葉で、科学とハンドボールとの関わりについてよく考えられた言葉だと思います。同様な言葉と考えは、日本のスポーツ科学界でもすでに存在しておりますが、今回の会議に参加して、より一層、科学と実践との間（研究者と現場コーチとの間）に存在するギャップを小さくする仕事の重要性とその仕事を実践する必要性を感じました。

ここまで、会議の内容にほとんど触れずに、会議の概要と筆者がこの会議で参加して考え、感じたことを書いてきました。本会議の詳細と研究発表をまとめたE-bookが下記サイトにてダウンロードできますので、個々の研究内容についてはE-bookを参考にしてください。

SCIENCE AND ANALYTICAL EXPERTISE IN HANDBALL CONFERENCE

http://www.eurohandball.com/article/014041

E-BOOK
SCIENCE AND ANALYTICAL EXPERTISE IN HANDBALL （SCIENTIFIC AND PRACTICAL APPROACHES）

http://www.eurohandball.com/article/14362
http://ebook.eurohandball.com/EHF%20Scientific%20Conference%202011/

平成23年度　チーム数・選手数一覧表

2011/3/1 現在

	種別	一般L		一般A		大学		高専		高校		中学生		小学生・少年団		リージョナル		合計	
No.	都道府県	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数
1	北海道	0	0	12	173	38	547	2	44	63	1081	19	415	10	116	9	135	153	2511
2	青森県	0	0	11	181	6	97	1	29	19	372	7	78	0	0	0	0	44	757
3	岩手県	0	0	9	135	4	79	1	16	36	749	32	744	6	83	21	287	109	2,093
4	宮城県	0	0	7	107	12	202	2	31	41	1, 060	20	448	4	17	0	0	86	1,865
5	秋田県	0	0	9	123	2	33	1	23	12	247	6	124	0	0	0	0	30	550
6	山形県	0	0	6	102	1	24	1	22	19	421	5	71	4	52	0	0	36	692
7	福島県	0	0	4	53	3	40	0	0	43	794	30	718	11	124	1	9	92	1,738
8	茨城県	0	0	5	103	4	59	0	0	59	1030	36	709	14	196	9	132	127	2,229
9	栃木県	0	0	4	56	2	35	0	0	18	345	14	287	7	124	3	22	48	869
10	群馬県	0	0	7	125	4	46	0	0	19	368	17	325	2	95	4	44	53	1,003
11	埼玉県	1	22	10	174	9	132	0	0	86	1,983	53	1,230	4	72	0	0	163	3,613
12	千葉県	0	0	6	82	9	206	0	0	61	1,232	32	684	17	148	1	10	126	2,362
13	東京都	0	0	24	406	48	949	2	28	145	2, 914	54	765	14	175	56	925	343	6,162
14	神奈川県	0	0	11	184	16	317	0	0	155	2,659	103	2,154	21	217	10	118	316	5,649
15	山梨県	0	0	6	91	4	59	0	0	27	457	13	245	6	86	5	66	61	1,004
16	長野県	0	0	8	91	5	62	0	0	32	518	11	215	2	16	0	0	58	902
17	新潟県	0	0	4	69	6	81	1	12	12	254	2	23	3	0	3	35	31	474
18	富山県	0	0	8	129	4	67	1	30	22	332	37	688	19	274	3	43	94	1,563
19	石川県	1	18	10	141	5	82	2	41	24	513	21	501	4	93	3	35	70	1,424
20	福井県	1	15	4	54	3	46	1	15	16	327	14	333	6	71	5	44	50	905
21	静岡県	0	0	12	159	3	52	1	20	44	1,117	6	168	1	18	1	24	68	1,558
22	愛知県	4	64	12	188	27	520	1	24	239	5,500	200	4,772	27	131	42	300	552	11,499
23	三重県	1	19	5	59	4	61	2	0	41	463	27	654	10	109	0	0	90	1,365
24	岐阜県	0	0	12	159	5	107	1	36	48	728	54	1,152	16	235	0	0	136	2,417
25	滋賀県	0	0	6	67	4	62	0	0	23	516	14	374	2	0	1	6	50	1, 025
26	京都府	0	0	5	79	19	291	1	32	34	645	30	580	18	283	15	105	122	2,015
27	大阪府	0	0	8	110	30	496	1	19	116	2523	59	1, 086	14	240	0	0	228	4,474
28	兵庫県	0	0	7	125	11	216	1	20	84	1681	30	644	10	160	9	136	152	2,982
29	奈良県	0	0	5	80	7	112	1	13	25	460	16	263	8	99	0	0	62	1,027
30	和歌山県	0	0	5	77	2	29	1	21	19	222	14	207	6	78	7	95	54	729
31	鳥取県	0	0	3	49	0	0	1	14	15	123	6	100	0	0	1	11	26	297
32	島根県	0	0	2	18	1	19	1	24	10	180	2	27	0	0	0	0	16	268
33	岡山県	0	0	12	171	7	115	1	22	53	577	17	335	16	285	4	56	110	1, 561
34	広島県	2	36	7	105	7	104	1	13	19	327	13	213	8	109	0	0	57	907
35	山口県	0	0	8	120	2	33	2	48	28	534	21	440	10	243	4	53	75	1, 471
36	香川県	0	0	4	61	3	69	1	17	22	393	23	359	10	221	0	0	63	1,120
37	徳島県	0	0	2	27	6	44	1	25	13	247	4	64	0	0	0	0	26	407
38	愛媛県	0	0	8	129	6	74	0	0	30	501	8	87	6	117	0	0	58	908
39	高知県	0	0	4	46	4	36	1	24	12	174	9	185	1	13	4	25	35	503
40	福岡県	0	0	5	70	14	263	4	102	49	1,142	27	564	6	79	0	0	105	2,220
41	佐賀県	1	17	2	25	2	30	0	0	13	218	8	81	2	31	0	0	28	402
42	長崎県	0	0	4	64	2	29	1	43	29	592	17	301	6	77	0	0	59	1,106
43	熊本県	1	23	6	98	5	76	3	39	56	1,187	33	731	23	417	0	0	127	2,571
44	大分県	0	0	5	51	3	49	0	0	13	219	14	246	12	138	3	41	50	744
45	宮崎県	0	0	4	46	2	22	1	16	33	642	21	321	12	133	5	37	78	1,217
46	鹿児島県	1	16	4	54	3	47	1	23	32	598	14	339	3	39	2	24	60	1,140
47	沖縄県	1	12	8	117	6	89	2	29	75	1,475	67	1536	34	608	29	402	222	4, 268
合計		14	242	330	4, 933	370	6, 208	46	915	2,084	40,640	1,280	26,586	415	5,822	260	3,220	4,799	88,566

〜普及に欠かせない記録〜

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

　今はまさに年度の切り替え時期。前年度の戦いの軌跡を大事にしておくことは大事なことの一つである。また、過去の数々の記録が手許にあるかも重要である。所属する団体、あるいは自分のデータは「自己の財産」と言えるものである。
　あるハンドボーラーに聞いたことがある。
　「○年の自分の成績は分かる？」
　すると、この人はこう言った。
　「主催者が持っているでしょう」
　これでは話にならない。続けてきた自己のプレー（記録）を人任せにするとは、いいプレーをしてきたとしても、その場限りではないだろうか。自分の戦いの軌跡は、まずは自分でしっかり管理することが、今後の成長にもつながってくるのではと思う。
　それはそれとして、大会関係者にしても記録を大事にしない、あるいは内部で管理しておけばいいという思いが時折してならない。
　ハンドボール関係者からよく聞く言葉がある。
　「何とかメジャー競技にしたい」
　そのためにはいろいろな方法がある。その一つにいくら小さな大会でも、内部だけで満足しているだけでは、夢はかなわない。全国各地にはそれぞれ地方紙あるいは放送局などメディアがある。彼らに積極的に発信しているだろうか。
　私が知る限り、そうしたことに関しては関心が薄いようだ。いくら伝達しても扱ってもらえないとの声も確かにある。でも、それは一方的な発想でしかない。相手にもその時はそれなりの事情もあるだろう。１度であきらめるのでなく、そのたびに提供し続けることが大切だ。しかも、試合後、可能な限り早く提供することである。大会が終わって何日後ではまったく意味をなさない。
　新聞紙上で、放送で、それなりの成績が伝えられれば、喜びは倍加するはずだ。なかでもジュニアクラスになればなおさらである。本人だけでなく、むしろ保護者、ファミリーの喜びはこの上ないことに違いない。
　こうしたメディアを“利用”することは、自己満足だけでなく、多くの人々の注目を集めることになる。
　記録はその時に残しておくことが重要である。記憶をたどったとしても、あいまいなことが多い。日本協会の年史にしても、過去の記録集計には大変な苦労をしている。自らしっかりと管理し、メディアを使うなど、あらゆる手段で「保存」することは、歴史をつなぐためにはとっても大切なことである。そうしたことが普及にも、振興にも結び付き、メジャー化にもつながってくるのではないだろうか。記録に対する意識をもっともっと植え付けることが求められる。

サモアで開催された学校ハンドボールプロジェクト
Records of the Handball at School Project in Samoa

山田永子 Eiko Yamada

Handball at Schoolプロジェクトについて

国際ハンドボール連盟（以降 IHF）は国際的なハンドボールの普及活動のひとつとして、「Handball at School」プロジェクトを2010年に発足した。このプロジェクトのねらいは、学校体育でハンドボールを教材とする授業が展開できる人材を育成することであり、その結果として特に若い世代の子供たちにハンドボールを経験してもらい、ハンドボール愛好者が増えることを期待している。このプロジェクトが発足した背景には、近年のクラブの経営難によるチームの解散や規模の縮小、そして主にハンドボール経験者しかハンドボールを指導しないという現状があげられる。それらの解決策としてIHF は、クラブに依存することなく世界中の学校体育でハンドボールを紹介していくために、体育教師にハンドボールの指導ノウハウを提供するプロジェクトを開始したのである。

2010 年 12 月に IHF が講習会を招致したい国を募ったところ、オセアニア 2 か国、パンアメリカ 5 か国、ヨーロッパ 5 か国、アジア 16 か国、アフリカ 17 か国、合計 35 か国から申し込みがあった。翌年 7 月から 12 月までの間に15 か国で講習会が実施され、2 年目に当たる 2012 年には、17 か国での実施を予定している。講師に関しては、ヨーロッパから 12 名、アジアから 2 名、南アメリカから 2 名、アフリカから 1 名の合計 17 名がプロジェクトのワーキンググループによって選出された。

2011 年 4 月に IHF の本部（スイス、バーゼル）で講師を対象にしたセミナーが実施された。そこではプロジェクトの目的と講習内容の共通理解が図られ、また現地担当者との打ち合わせ事項など事前準備に関する話し合いが行われた。さらに、シンガポールで試験的に実施された講習会の様子が報告され、ハンドボールが普及していない国、文化の異なる国で講習会を実施する際に起こりうる問題と対策などが話し合われた。

今回、私は講師としてそのプロジェクトに関わることになった。派遣先はサモア独立国（以降サモア）で、派遣期間は2011 年 11 月 20 日 ~12 月 5 日であった。サモアは赤道の南 1200km、南太平洋の中心に位置し、日本との時差は 20時間。2011 年 11 月 20 日に成田国際空港を出発し、ニュージーランドのオークランドで乗り換えて、11 月 21日の夜中 1 時にサモアの首都アピアに到着した。

講習会

第 1 回目は LFC 高校の教員 6 名と生徒 30 名、第 2 回目は CCCS 大学の教員 8 名と大学生 35 名が受講し、それぞれの学校で 3 日間にわたって講習会を実施した。最終回は、地域の教会で子供たちに集まってもらい、ミニゲームを中心にハンドボールを紹介した。サモアではスポーツと言えばラグビーである。どこの学校にも芝生のラグビー場があるが、ほかの運動施設は見当たらない。屋根つきの講堂があったが、屋内では暑くて 5 分といられないため、ラグビーコートで実技を行った。もちろん、ハンドボールゴールもなければ、コーンなどもなかった。そのため、近くに落ちていたタイヤをゴール代わりに設置し、サンダルなどをコーン代わりにした。ここでは体育の授業も制服のまま、サンダルまたは裸足で行うようで、男子生徒も女子生徒もスカーフを腰に巻いた

格好で実技をした。時折、スカーフにボールが引っ掛かるが、細かいことは気に留めずに汗びっしょりなるまでボールを追いかけていた。生徒たちは非常に意欲的で集中力があり、ルールを覚えるのが早く、基礎的なシュート、フェイント技術はすぐにマスターした。また、空中でのボールの奪い合い、身体接触による競り合いを好み、ミニゲームは非常に白熱した。初日の実技内容は以下のよう実施し、2日目以降はミニゲームを中心にした実技に加えて、公式戦の様子やゴールキーパーの基礎技術を紹介する講義を行った。講義は、コンクリートの上に柱と屋根だけで造られるサモア独特のサモアンハウスで行った。

【初日の講習内容】

10:30～11:00　ボールハンドリング
11:00～11:30　基礎防御（ルール解説、基本姿勢、動き方、ボールカット、方向付け）
11:30～12:00　基礎攻撃（ルール解説、ドリブル、パス、パスフェイク、フェイント動作からジャンプシュート）
12:00～13:00　ミニゲーム

ハプニングの連続

本来ならば、今回の講習会は体育教師を対象に実施されるものであった。しかし、ここサモアでは交通手段が整備されておらず、先生も生徒もスクールバスを利用して学校へ通っており、どこかで講習会を開催して、先生方に集まってもらうことは難しかった。さらに、サモアでは講習会の受講者側が主催者側に交通費や手当てを要求する慣習があるため、それらを支払う資金が協会にないという理由から、一校一校訪問して講習会を開催することになった。また、11月末がサモアの年度末で卒業式シーズンであったことから、当初の講習会の予定が何件かキャンセルになり、予定は未定の日々が数日続いた。さらに、現地で困ったことと言えばボールがほとんどなかったことである。今回の講習会を実施するにあたり、IHFからボール60個と200冊程度の指導書がサモアに送られていた。しかし、現地に行ってみると指導書はあっても、ボールが数個しかなかった。なぜかというと、届いたボールに関税が課せられてしまい、その関税を支払えないために、いまだに空港にボールがあるという。今回の講習で使用したボールは2009年にIHFが寄付したものだった。理事のヘミさんは、「もらったのがまだ残っていてよかった。」と楽観的…。少しでも多くの人に長くハンドボールに触れてもらいたかった私としては、非常に残念だったけれども、実際にはサモアハンドボール協会の中でヘミさんだけが仕事をしている状況だったため、今回の講習会全般を円滑に運営できないのは無理もないというのが率直な感想である。

環境を整える試み

帰国前には理事のヘミさんとスポーツ省を訪問し、スポーツ施設大臣やオーストラリア、ニュージーランドからのスポーツ普及スタッフと面会、またサモアの新聞社サモアオブザーバーを訪問しハンドボールを紹介した。今回の訪問を通じて、その国に根付いていないスポーツを育んでいく難しさを痛感した。国からの支援もない、協会の資金や人手がない、施設や用具がない、知名度がない、ないないづくしであるが、始めはどこもそうであるはず。2012年はサモアでない国に派遣されることになるが、サモアで経験したことを次の訪問に生かしたい。サモアのハンドボールに対して、今回の私の訪問はとても小さな影響しか及ぼさなかったと思う。けれども、ヘミさんと出会った縁を大切にして、これからもサモアの人々、自然環境、生活スタイルに適したハンドボールの普及のお手伝いをしていきたい。そんな小さなウェーブを繰り返して、サモアにハンドボールが根付くことを願っている。

国外のスポーツ環境に触れるたび、日本のスポーツ環境を再認識する好機になっている。このような貴重な機会を与えてくれたIHFに心より感謝したい。

NTS2011センタートレーニング 全体総括・総評

NTS技術指導委員長　田中 守

2012年の年明け早々の1月5日~7日に高校生、1月7日～9日に中学生を対象としたNTSセンタートレーニングが、味の素ナショナルトレーニングセンターで開催されました。夏に開催されたNTSブロックトレーニングを経て、全国9ブロックから推薦された約30名の選手（表1）が参加しました。

NTSの主旨が全国から優秀な選手を発掘することでもあり、多くの選手にそのチャンスを提供できるよう、今年度から年代別強化指定選手（各年代5名程度）とジュニアアカデミーに参加している選手を除いて実施することになりました。その中でのNTSセンタートレーニングの主旨は、現強化指定選手との入替を含めた年代別強化指定選手の選考と指導者研修です。なお、強化指定選手に選ばれなかった選手はすべて強化候補選手となります。

2000年にスタートしたNTSは、全国のハンドボール関係者のご協力により、今年12年目に入りました。昨年度、競技者育成技術委員会では10年間の検証を行い、成果については継続しつつ、新たな課題（取り組み）を加えて準備を進めてきました。中長期的に、ユース・ジュニア層が世界大会で活躍する選手づくりを具体的目標として掲げ、そのための新たな取り組みとして、小学生から高校生までの一貫指導内容の再検討と、一貫指導内容を各県でも取り組んでいただくためのNTS組織の再編がそのポイントです。

1.NTS技術指導内容策定の全体像

NTSスタート時から目的としてきた「個の育成」を主眼に、指導内容の一貫性を再検討するワーキンググループとして新たに「NTS技術指導内容策定委員会」を編成し、攻撃・防御・GKの部門別担当者中心に3カ年計画で整理・構築する計画で進めています。

具体的には、個人スキルとコンビネーションスキルを下記3段階設定し、スキルアップしていく全体イメージをもって、内容の検討を進めています。併せて、各スキルの達成度をチ

（表1）NTS選手名簿

● 高校男子

選手名	学校・チーム名
千葉 敦	岩手県立不来方高校
藤 勢流	山形県立北村山高校
今野 利彦	茨城県立藤代紫水高校
宮内 優樹	早稲田実業学校高等部
亀田 拓人	法政大学第二高校
小山 哲也	横浜創学館高校
太田 拡	神奈川県立横浜南陵高校
山崎 久志	富山県立氷見高校
佐崎 静磨	高岡向陵高校
友兼 尚也	北陸高校
中野 尚	北陸高校
平子 大喜	名古屋市立桜台高校
日比野 晃	名古屋市立桜台高校
島本 健正	三重県立名張桔梗丘高校
大迫 秀政	京都府立洛北高校
竹中 健太	神戸国際大学附属高校
中野 裕通	神戸国際大学附属高校
西田 祐輝	岡山県立総社高校
徳田 新之介	山口県立岩国工業高校
奈良 圭祐	香川県立香川中央高校
矢田 路人	香川県立香川中央高校
玉 舜元	西南学院高校
中井 英初	祐誠高校
西山 啓太	佐賀清和高校
岡本 流星	大分県立大分舞鶴高校
原 健也	宮崎県立小林秀峰高校
津山 弘也	宮崎県立小林秀峰高校
岡元 竜生	鹿児島県立志布志高校
宮里 俊輝	興南高校

● 高校女子

選手名	学校・チーム名
佐藤 早矢加	青森県立青森西高校
緒方 蒔奈	福島県立橘高校
石井 優花	埼玉栄高校
岸本 奈緒	埼玉県立八潮高校
綿引 彩恵	埼玉栄高校
夏目 真咲	佼成学園女子高校
田中 夏実	駿台甲府高校
高橋 知里	新潟県立長岡大手高校
山田 歩美	高岡向陵高校
森 優稀	富山県立氷見高校
深田 彩加	小松市立高校
山田 夕莉	桜花学園高校
三好 世倫菜	大同大学大同高校
塩津 悠	暁高校
岡田 夕佳	三重県立四日市四郷高校
武田 ひかり	岐阜県立長良高校
板谷 愛美	立命館守山高校
藤岡 美希	立命館守山高校
片山 愛梨	京都府立洛北高校
榊原 由加里	宣真高校
永井 かおり	宣真高校
森村 美紅	城南学園高校
内藤 香織	和歌山県立和歌山商業高校
水落 萌香	山口県立華陵高校
築山 亜美	山口県立華陵高校
中川 亜砂美	香川県立高松商業高校
徳永 千紘	愛媛県立今治東中等教育学校
松本 美佐	東明館高校
中村 桃子	熊本国府高校
園田 麻乃	宮崎県立小林秀峰高校
西郷 彩	鹿児島県立鹿児島南高校
由浅 日香里	沖縄県立那覇西高校

● 中学男子

選手名	学校・チーム名
楢山 修平	函館市立桔梗中学校
佐藤 夢良	花巻市立花巻北中学校
襲屋 竜流	盛岡市立見前中学校
中井川 翔	つくば市立手代木中学校
大塚 稜也	富岡市立西中学校
安岡 諒	春日部市立春日部中学校
康本 侃司	柏市立松葉中学校
千葉 隆太郎	東邦大学付属東邦中学校
新谷 恵介	小松市立南部中学校
西口 広	福井市安居中学校
谷口 魁	福井市安居中学校
升澤 圭一朗	福井市光陽中学校
森脇 龍	名古屋市立港南中学校
大谷 由岐也	名古屋市立平針中学校
平子 脩人	鈴鹿市立白子中学校
大熊 智宣	ヴァルト岐阜
阿部 成将	神戸市立井吹台中学校
兼松 健次郎	高砂市立高砂中学校
酒井 一成	倉敷市立南中学校
平澤 翔崇	周南市立岐陽中学校
守谷 優汰	綾川町立綾南中学
新野 昴貴	東明館中学校
三重 樹弥	長崎市立小島中学校
野村 雄也	宇城市立松橋中学校
原田 大夢	宇城市立松橋中学校
花宮 匠	大分市立鶴崎中学校
吉田 宗輝	大分市立植田西中学校
中村 誠忠	小林市立三松中学校
伊舎堂 博武	浦添市立仲西中学校
山崎 純平	花巻北中学校
白石 光希	滝沢南中学校
安平 拓馬	西條中学校
田里 亮稀	神森中学校

● 中学女子

選手名	学校・チーム名
佐野 有花	仙台市立中田中学校
真方 彩帆	三郷市立北中学校
海老原 加英	三郷市立北中学校
八木 晴菜	東久留米市立西中学校
青 麗子	東久留米市立西中学校
江島 朋夏	横浜市立中川西中学校
唐木澤 槙央	千曲市立更埴西中学校
高松 美穂	小松市立南部中学校
渡部 真綾	小松市立南部中学校
中野 智佳	能美市立寺井中学
神谷 怜名	名古屋市立滝ノ水中学校
村松 沙耶	名古屋市立鳴海中学校
林 里菜	羽島市立羽島中学校
丸田 くるみ	高山市立中山中学校
正司 菜奈美	京田辺市立培良中学校
栗本 結佳	大阪ジュニアクラブ
大谷 真央	大阪ジュニアクラブ
中山 朋華	夙川学院中学校
岸本 栞奈	周南市立周陽中学校
岡本 真侑	岩国市立岩国中学校
西谷 幸	高松市立香川第一中学校
中川 瑞季	宇城市立松橋中学校
川上 真依	大分市立原川中学校
松浦 侑加	小林市立三松中学校
伊地知 美姫	鹿児島市立谷山中学校
登川 愛	沖縄市立美里中学校
奥田 結菜	西條中学校
林 のぞみ	氷見十三中学校
島崎 愛	松橋中学校

ェックする「スキルチェックテスト」の作成も進めています。

基礎段階：小学校期に身につけさせたい「正確な動き」づくり

応用段階：中学校期に身につけさせたい「的確な観察と判断による動き」づくり

発展段階：高校期に身につけさせたい「駆け引きや予測による動き」づくり

その中で、2011年度の一貫指導内容のポイントは以下の通りです。

2.NTS2011の指導内容の方針

NTS2011では、基礎段階を中心とした内容を攻撃編、防御編、速攻編、GK編それぞれに設定し、応用段階の内容も一部取り入れながら「基本から一部応用へ」と繋げていく内容にしています。中学生と高校生も改めて基本となる「正確な動き」の確認をした上で、「的確な観察と判断による動き」へと繋がっているかを確認していただきたいと考えています。

もちろん、これらのスキルのベースとなる土台づくりとして重要なのが、NTS2010に取り入れた「ウオーミングアップでの体幹づくり」です。どの年代においても、ウオーミングアップで土台づくりができますので、改めて復習しておいてください。

3.NTS組織の再編

昨年からスタートしたNTS組織再編で重視しているのが各県の技術指導委員の役割です。NTSの求める一貫指導体制の構築に向けて、全国の指導者が上記の考え方を共通に持って指導することが重要です。その上で、独自のチーム戦術や戦略を各指導者が考え、構築し、勝負することが求められます。NTSは、選手発掘だけではなく、育成していくための「技術指導の情報提供」であり、ひいてはナショナル選手へと繋げていくための真にナショナル・トレーニング・システムであることをご理解ください。

以上のような考え方でブロックトレーニングを実施し、センタートレーニングでは下記内容を実施しました。

1. 最初に、恒例の体力測定を実施しました。

2. その後、今年度策定した指導内容を、部門担当者が中心となって改めて指導しました。なお、技術トレーニング前に、昨年度新たに取り上げたウオーミングアップの中で、体幹強化、肩関節と股関節の可動性の拡大による大きな動きづくり、リズムとリラクゼーションをねらいとしたものを行い、多くの技術習得の前提となることを強調しました。

3. 後半は、中学生に対してはU-16、高校生に対してはU-18のコーチングスタッフの提示するチーム戦術構想を初日夜の座学により学習するとともに、それを実践（表現）するトレーニングを実施しました。

4. 1日目の夜には、ハンドボール選手に必要な体力づくりについての研修も実施しました。

5. 2日目の夜には、昨年度新たに取り入れたメディカルチェックにより障害の既往歴や現在の症状、さらには体の柔軟性や筋の硬度などさまざまなコンディショニングチェックも行いました。

6. 2日目の夜に選手のメディカルチェックと併行して指導者の研修を行い、ロンドンオリンピック予選報告とナショナルチームの取り組みについて、男女ナショナルチームの監督あるいはコーチからプレゼンテーションいただき、併せてフリーディスカッションを行いました。

7. 昼休みを活用して、ロンドンオリンピック予選の映像を観賞させ、その後、審判部によるジャッジに関する講義と質疑を行いました。

年始早々から、非常に内容の濃い充実したNTSセンタートレーニングが実施できたのも、参加した選手、引率指導者、指導・測定・運営スタッフ、送り出して下さった学校や企業、保護者など多くの方々のご理解とご協力によるものと、書面を借りて深く感謝申し上げます。

現在の日本代表選手のほとんど（9割強）がNTSのブロックあるいはセンタートレーニングを経験してきていることからも、今回参加した選手の多くが日本代表へと育っていくことを期待しています。ありがとうございました。

■各カテゴリーの指導ポイント

【男子U-19・U-16】

男子ジュニア・ユース日本代表チームの目指すチーム戦術と課題には一貫性を持たせており、ゲーム構成として以下の6ポイントを提示している。①強固なセットディフェンスの構築、②セットディフェンスから速攻への切り換えのスピードアップ（7秒以内での得点）、③シューティングエリアへのパス展開のスピードアップ（3本以内のパスでの得点）、④アライビングアタック（ボール獲得から7～20秒以内での得点）でのオフェンスシステムの構築、⑤ミスの少ない高確率なセットオフェンスシステムの構築、⑥オフェンスからディフェンスへの切り換えのスピードアップ。このことに加え、日本代表選手としての10箇条を提示し、自己意識改革を勧めている。

【女子U-18】

オフェンスのポイントして、①ワイド攻撃、②シュート及びカットインの技術向上、③局面における共通認識（2対2及び3対3の基本戦術の理解と修得）を、ディフェンスのポイントして、①組織的に連動した牽制ディフェンス、②最低2種類のシステム理解と実践を、速攻のポイントして、①縦の走りによるアウトナンバーづくり、②クイックスタートを提示している。

【女子U-16】

日韓親善交流のみの活動から、①韓国のトレーニングから学ぶものをしっかりと厳選し日本スタイルへ取り組むこと、②日本人特有の勤勉さを前面に出していくこと、③U-16からナショナルまでの一貫性を持った考え方で進めていく中で、U-16として①判断力の強化②戦術練習③フィジカル練習、の基礎練習による強化とそのトレーニング法の公開、を提示している。

2011年度センタートレーニングアンケート集計

実施日:2012年1月5~9日 高校指導者・中学指導者

Ⅰセンタートレーニングの総合評価について

1. 大変役に立った ：17
2. 役に立った ：6

Ⅱ インストラクターの指導方法について

1. 大変良い指導である ：13
2. 良い指導である ：9
3. ふつう ：1

Ⅲ センタートレーニングでの時間配分がどうでしたか

1. 大変良かった ：5
2. 良かった ：13
3. ふつう ：4
4. 良くなかった ：1

【その理由】
- もう少し時間があると良い。
- 個の育成面でDF、OFのバランスが良かった。
- OF、DF、GK、速攻、ゲームとそれぞれの分野でしっかり練習できた。
- 短い時間でたくさんのことを導入するにはこのような感じなのかと思った。
- 少し時間が詰まっている感じがしたが、内容が充実していた。
- 3日間無駄な時間がなかった。
- ナショナルとの時間調整していただきありがたかった。
- U-16を意識する時間があり、選手のモチベーションはより高まったと思う。

Ⅳ 今回のトレーニング内容はあなたにとって役立ちましたか

1. 大変役に立った ：15
2. 役だった ：7
3. ふつう ：2

【そのトレーニングは】

GK：12、DF：3、フットワーク：4、戦術：2、攻撃のきっかけ：1、ウォーミングアップ：1、体幹：1、速攻：1、プレスDFの攻める考え方：1

【その理由】
- マンネリになっている。
- 攻めきれない。
- 違ったフットワークのやり方もあった。
- 股関節の可動域の必要性。
- 具体的ポイントを指導していただくことができた。
- GKの体の使い方がよくわかった。
- GK理論。
- いろいろなパターンを知ることができた。
- GKだけの練習ができないので参考になった。
- 心身ともに基本的な構えや準備のことが分かりやすかった。
- ボールを使った練習を好むがバリエーション豊かなメニューで飽きない。
- 普段の悩みが解決した。

Ⅴ センタートレーニングの実施時期について、いつが良いですか

1月初旬：15、3月：1、12月：4、10月：1、11月：1

Ⅵ NTSに対してご意見、ご希望がありましたらお聞かせください

- サイドのスペシャリストを選考し育てることも日本代表チームにとっては大切なことではないかと思う。
- とても良い企画です。
- ナショナルチームの強化のためには必要不可欠である。
- 今回の内容を本県の指導者・選手に伝えていきたい。
- U-15の方が各チームに持ち帰って練習する機会がある。
- 打倒韓国を目指すのであればビデオも韓国戦を見せ、考えさせたり指導したりすると良い
- 基本的な体幹や考え方、基礎技術の時間配分を増やしたらどうかと思う
- 地方でも講習会があると参加者の意識が変わると思う
- 女子を見ているとコミュニケーションといいながらそれをとる時間もなく練習が区切られ進行した。
- 事前にスケジュールを知らせてほしい。
- 代表チームが練習していたので見学させるのもモチベーションUPだったと思う。
- お互いの交流を図るため、指導者名簿を配布していただけるとうれしいです。
- 荷物を置く場所がある良い、カバンの置き場所に困った。
- ボールをもらう動き、フェイント、シュートの考え方や練習メニューを提示していただけるとありがたい。
- 宿泊場所が事前にわかると荷物の扱いが便利。
- 酒巻監督の講話は大変良かったです。パスが遅いという話、ボールをさばくパフォーマンス。
- 体幹トレーニングの指導者講習会があるとよい。
- 体力測定など各ブロックNTSの時に終了しておけば、センターの時に他の技術指導ができるのでは。
- もう少し人数的に増やしてもよいのでは。
- 男女の日を替えてもよいのでは、時間的に短い気がする。
- まだまだ金の卵がいるように思う。本当にしっかりした基準で選ばれているのか、指導者の好みやしがらみで外されていないことを願います。
- 時間的な制約からFBに関するメニューが削除される傾向にあるので是非実施していただきたい。
- 中高のチームは存続が大きな問題になっているところもあるので、是非意見を聞いてもらいたい。
- 見学するポイントなどのレジメがあるとよかった。

ハンドボール競技における ドーピングについての豆知識

財団法人日本ハンドボール協会／アンチ・ドーピング特別委員会

国内のドーピング検査には、以下の役割の方々がおります。

●日本アンチ・ドーピング機構（JADA）
● Lead DCO（リード・ドーピング コントロール オフィサー：検査の現場責任者）
● DCO（ドーピングコントロールオフィサー：検査員）
● NFrep（National Federation Representative: 日本ハンドボール協会の代表者）
●シャペロン（対象選手のエスコート役）

大会期間中の検査について【競技者（選手）・チーム関係者の方】

●大会期間中は、競技会検査（対象試合)・競技会外検査（対象試合終了直後の検査以外の検査）とがあります。
●原則、事前通告なしで検査がおこなわれます。
●競技会（対象試合）での検査抽選の対象は、ベンチ登録された競技者（選手）です。
●抽選のタイミングは、試合の後半終了 10 分前に Lead DOC からチーム関係者（監督・コーチ・トレーナー等）に NFrep 立会いの下、指定をされた枚数の抽選をおこない、その番号の背番号の競技者（選手）が対象になります。
●大会期間中に対象となるチームまたは競技者（選手）は、1度とは限りません。（複数回対象となる場合があります。）
●一発レッドカードによる失格の場合、検査の対象となる可能性があるので、試合終了後に指示があるまで決められた場所に留まっていただきます。（検査員が誘導いたします。）一発レッドカードの場合、対象にするかどうかは試合終了直後に Lead DCO、審判員および TD（マッチバイザー）との話し合いにより最終的に Lead DOC 決定をする。
●試合中の怪我による検査対象からの除外の決定は、様々な状況を確認して最終的に Lead DOC が決定をいたします。
●競技会外検査では、事前通告なしで会場や宿泊場所にておこなわれます。

検査対象者になった時：『通告』を受けた時の留意点【競技者（選手）の方】

●競技者（選手）は、本人の出場すべき競技を最後まで終了する権利があります。
●本人が競技中にもかかわらず、検査対象に選ばれたとの通告を受けたときは、通告に来た DOC（検査員）・シャペロン（エスコート役）及び NFrep または主催者に、競技中であることを意思表示し、納得が出来ないときは、公式記録書に通告受諾の署名を安易におこなわないでください。
● DOC（検査員）やシャペロン（エスコート役）を不用意に避けたりしないでください。
●通常は、検査対象の通告を受けたら速やかに指示にしたがって検査室に入ります。（試合終了後のチームミーティング時は、その事を DCO（検査員）・シャペロン（エスコート役）に伝え、シャペロンから離れない様にお互いに確認を願います。）
●表彰や記者会見等がある場合は、DOC（検査員）やシャペロン（エスコート役）に状況を報告し、終了後に検査室に入ります。（少し離れた場所で DOC（検査員）等が立ち会います。）
●『通告』を受けてから、検査室に入るまでの間はシャペロン（エスコート役）が競技者（選手）に同行いたします。
●競技者（選手）本人は、なぜ対象者となったかを知る権利があります。
●トイレに行きたいと思った時には、遠慮をせずシャペロン（エスコート役）にその事を伝え、検査室に直行しましょう。

検査対象者になった時：『同伴者』とその選任について【チーム関係者の方】

●競技者本人は、『同伴者』を1名指名できる権利があります。コーチ・帯同役員等の信頼できる人を指名してください。
●『同伴者』は、検査室に検査員に承諾を得て出入りでき、用足し等の検査対象者の支援をすることができます。
●同じチームの選手が同時に2名の検査対象になった時は、互いに『同伴者』を指名しても結構です。
●国際大会の場合は、国の威信のかかった競技会では、種々のしがらみから悪意に満ちた検査をおこなう国があるかも知れません。競技者（選手）の自己防衛は当然として、日本国と日本のハンドボール選手としての名誉の為、必ず『同伴者」を選んでください。
●このような国際大会に出場する選手・役員は、国内大会で『同伴者」を経験しておくことを推奨いたします。
●日本ハンドボール協会では、WADA 規程を厳守し、JADA の協力のもと世界最高レベルの公正さで検査を実施します。このレベルでの検査を経験すれば、世界中のどのような不正な検査も見抜けますので、是非とも快く国内大会での『同伴者』を引き受けていただき、経験を深めてください。

検査室に入ったときの留意点

●検査室には、DOC（検査員）・競技者（選手）本人。同伴者。NFrep の代表者以外は立ち入り禁止となります。最初に入室をしたときに、それ以外の者がいたときには、退出をするよう要請してください。特に外国において、このような事態が発生したときは、母国語でかまわないので直にアピールをしてください。通じない時には通訳を呼ぶ権利があります。また、このような状況が発生したことを、公式記録書に母国語で記載する権利があります。

●検査室内に用意された飲料は未開封であること。
●飲料は、信頼のおける製品であることの確認してください。
●検査室内での検査で準備をしている飲料以外の飲食については、競技者（選手）本人や同伴者の持込は自己責任での飲食となりますのでご注意を願います。
● Lead DOC の許可があれば、競技者（選手）本人も検査室から外出が可能です。この場合は、必ずシャペロン（エスコート役）あるいは DOC（検査員）の方が帯同いたしますので 1 人では、出ないでください。

採尿における留意点

●採尿カップを選択する前に、流水で手を洗ってください。（禁止薬物が混入しているかも知れませんので、決して備え付けの石鹸は使わないようにしてください。外国では特に！）
●採尿カップの選択では、最低 3 個以上の中から選択をしてください。
●採尿カップの選択では、競技者（選手）本人はもとより同伴者も一緒に確認をし、面倒でも以下の点に注意をして選択します。また、交換や追加を要請する権利もあります。

1. 採尿カップの外装の破損や著しい汚れがある。
2. 採尿カップ内に、異物がある。
3. 採尿カップ内に、汚れがある。

●採尿現場には、同姓の DOC（検査員）が立会います。指示にしたがってください。
●開封した採尿カップの内側は、不用意に触れないでください。
●いったん採取した尿は、万全を期すために必ず競技者（選手）本人の手元もしくは、視界内においてください。特に外国においては、十分注意をしてください。
●採尿検査の終了は、検査対象物の質と量が規定値をクリアし、それらの注入作業から封印作業までが採尿の作業になります。

公式記録書記載における留意点

●公式記録書は、検査の最も重要な証拠となります。
●公式記録書の内容について、DOC（検査員）は競技者（選手）本人と同伴者に説明をする義務がありますので、安易な妥協やあいまいなまま公式記録書の作成を進めないよう に注意して記載をしてください。
●競技者（選手）本人と同伴者は、最後に検査についての見解を公式記録用紙に記載できる権利があります。母国語での記載でかまいませんので、疑問や不審な点があればコメント欄に記載してください。欄が不足していたら、補足の用紙を請求してください。
●海外での国の威信のかかった国際大会では、特に以下の点に注意をしてください。

1. 競技終了以前の通告が、恣意的なものではないかどうか。
2. 競技者（選手）本人と付添人が、検査室に入る以前に DOC（検査員）と IF（国際連盟）の代表者以外の不審者がいなかったか。
3. 採尿カップの選択が、競技者（選手）本人が納得できる状態でおこなわれたか。
4. その他、検査が競技者（選手）本人の不利」になるよう進められたことはないか。

●公式記録書の最終署名は、競技者（選手）本人と同伴者が納得した段階でおこなってください。

同伴者の役割について

●日本ハンドボール協会では、アンチ・ドーピングの啓蒙のため、検査室の中では、DOC・選手・同伴者・NFrep が互いにコミュニケーションを十分にとり、可能な限りの教育的措置を併せて、WADA 規定のもとに全て公正に検査を進めております。
●日本ハンドボール協会でおこなっている検査は、世界標準と自負して実施しております。
●日本国内では、他の競技団体においてもこのようなスタンスで検査を進めておりますが、しかし、国際大会のように国威にかかわる競技会になりますと、巧妙な手口で自国有利に検査を導く国があることも予想されます。
●競技者（選手）本人には、必ず役員・コーチ等の同伴者を選任することを DOC（検査員）、シャペロン（エスコート役）に申告するように伝えてください。
●特に未成年者の場合は、必ず同伴者をつけてください。
●同伴者は、最後まで競技者の支援をお願いいたします。
●同伴者は、20 歳以上の成人であることが条件です。（途中で交代は可能です。）

TD（マッチバイザー）・審判員の方々へ

●一発レッドカードによる失格の場合、検査の対象にするかどうかについては、試合中の行動や言動、態度を参考にして、試合終了の直後に Lead DOC、審判員および TD（マッチバイザー）との話し合いにより最終的に Lead DOC が決定をいたします。

大会役員の方々へ

●怪我等で選手がコート上から離れる場合、ドーピング検査対象から除外するかどうかの判断が必要になります。試合終了までの競技者の状態やチーム更衣室や控室または救急搬送等での居場所情報を知る必要がありますので、情報の共有にご協力を願います。
●怪我でも検査に対応ができると判断される場合は、検査対象となります。

大会関係者【大会役員・選手・チーム役員・審判員・TD（マッチバイザー）の方々へ】

●検査の対象となった大会・試合では、NFrep（日本ハンドボール協会の代表者）がおります。
● NFrep（日本ハンドボール協会の代表者）は、検査においては競技者（選手）を保護する役割、そして大会関係者との間では、運営が円滑にできるように事前準備等の連絡や事前打合せ等の役割を担います。
●試合中における対象選手の抽選の立会いと、一発レッドカードになった時の Lead DOC と審判員・TD（マッチバイザー）との話し合いの調整等の立場におります。
●ドーピング検査についての決定権は、Lead DOC にあり NFrep にはありません。
●検査対象となった大会試合で、疑問や不快に思ったことは会場にいます NFrep に声を掛けてください。検査に関しては、NFrep と Lead DOC で協議をおこない、必要に応じて双方の円滑な検査の環境に改善処置を施します。

受賞報告

日本運動生理学会 第12回学会賞を受賞して

―氏か育ちか―

宮崎県ハンドボール協会副会長　宮元 章次

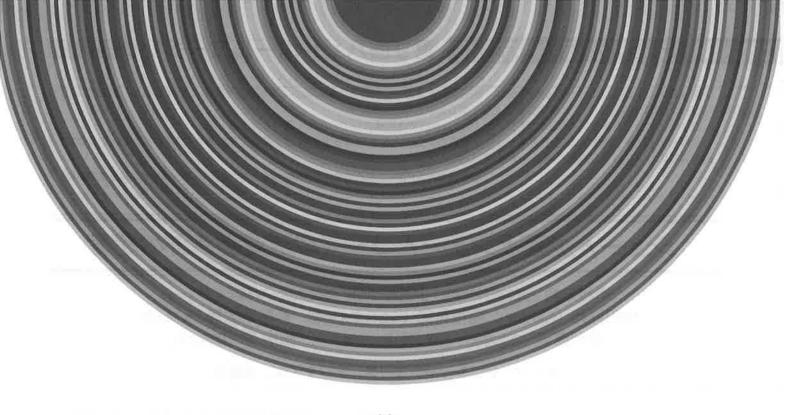
みやもとしょうじ
宮元章次　宮崎公立大学人文学部教授［1956年10月生れ］

この度は、寄稿の機会を頂きありがとうございました。私は1982年に琉球大学に赴任し、現在の宮崎公立大学人文学部に着任してからちょうど30年になります。学生時代には元筑波大学ハンドボール部顧問の大西武三先生に大変お世話になりました。「氏か育ちか」の研究を始めたきっかけは、1980年代後半、琉球大学保健管理センター長の高良宏明医学部整形外科教授との出会いにありました。教授にはハンドボール部員に怪我をさせるたびにお手数をお掛けしていました。この時に教授の計らいで医学部のスタッフとの共同研究をはじめました。当時、日本人の健康な青年の骨密度と運動との関連については明確に示されていませんでした。

1990年前半に文部科学省研究員として中京大学体育学研究科に席を置かせて頂きました。元日本運動生理学会会長石河利寛先生、北川薫先生の指導を受けてまいりました。ここで女性の体脂肪率の算出式を示すことができました。当然のことではありますが、このような栄誉を頂いたことに対し4人の先生をはじめ、これまでにご指導をしていただきました方々にあらためて感謝申し上げる次第であります。

ここで、日本運動生理学会及び受賞研究内容について簡単に述べたいと思います。まず、この学会は、運動・スポーツの生理学に関する専門的、学際的研究の発展を図る活動を行っていて、2000名弱ほどの会員を有する学会です。学会賞は過去に6人が受賞して今回が7人目になります。研究の背景として、日本人の食生活が大きく変遷していることがあります。国民栄養調査によると、脂質摂取は1955年8.5%から現在25%へと増加しています。人は石器時代からほとんど進化していませんが、ここ45年間で食生活が大きく変化しています。食生活がメタボリック・シンドロームなどの成人病と関連していることは周知のとおりです。一方で、若い女性の痩身が増加しています。Body mass index 18.5kg/m2未満の20代女性は22.5%もいます。痩身女性から生れてくる子は将来肥満と関連します。また、受精卵が貧しい環境で育つと生れてくる子は心臓や肝臓が小さくて筋肉量が少ない状態で成長します。成長してから貧しい食事であれば健康ですが、逆に豊かな食事を摂るとメタボリック・シンドロームや骨粗鬆症の発症率が高くなります。胎児期と新生児期の栄養の重要性が解明されつつあり、中年以降に現れる病気は発達プログラミングが影響するという仮説が認められるようになってきました。Epigenesis（後成説）は生体の構造が発生の過程で順次作られて、両親から受け継いだ遺伝子はepigeneticな変化を受け継ぐというものです。

このような研究の背景の中で、最近、取組んだテーマは「胎児を含めた発育期の栄養状態が成人女性の身体組成に及ぼす影響について」であります。これについては、大きく3つの柱となる選考研究があります。1つは胎児期に栄養状態が悪くても成長は追いつく（catch-up growth）が、思春期以降に体脂肪率が高くなること（肥満）。2つ目は体脂肪率が高い（筋肉量が少ない）と骨に与える刺激が少ないので中高年期に骨粗鬆症に罹りやすくなること。3つ目は骨粗鬆症の予防として成人期までに最大骨塩量を高めることと、その後の減少を抑えることがあげられます。今回の研究は3つ目のことに関連していますが、スポーツは低出生体重で生まれた子の骨を強くできるのか調査して骨粗鬆症の予防法を示しました。その結果、未熟児など低体重出生の日本女性は、いわゆるcatch-up growthが体脂肪率を増加させていて、これは思春期に習慣的な運動を行うことで大腿骨部の骨密度を高めて脂肪量を減らすことが出来ることを明らかにしました。骨と脂肪は同じ脊髄細胞から生まれ、どちらかになるかは運動の要因が影響を及ぼしています。なお、この研究成果は『Advances in Exercise and Sports Physiology』に掲載されています。

ナデシコ・ジャパンの活躍のように日本社会に女性が勇気を与えています。日本人の体力を向上させる近道は将来生れてくる子を丈夫に育てられる女性の体型にあるかもしれません。

第９回ハンドボールコーチング研究会は、平成 23 年３月 12 日駒澤大学において開催が予定されていましたが、前日の３月 11 日に大震災が発生したことにより中止となりました。
そこで研究会で発表予定であった内容については、本誌で連載報告していただく運びとなりました。
今月は市村志朗（他）の発表内容「シュート位置とシュートコースの定量化手法の提案」を報告させていただきます。なお、他の発表については次号以降で報告を連載いたします。

（財）日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人福島高等学校）

シュート位置とシュートコースの定量化手法の提案

市村志朗（東京理科大学）、小笠原一生（国立スポーツ科学センター）、
仲田好邦（名桜大学）、稲福貴史（仙台大学大学院）、斉藤慎太郎（大同大学）
舎利弗学（福島高校）、田村修治（東海大学）、田中 守（福岡大学）

キーワード：シュートコース、デジタイズ、定量化

はじめに

IHF 主催の国際大会では、PC を用いて、時系列にイベント、スコア、シュート位置、シュートコースなどがデジタル記録され、試合終了直後にそれらデータが紙ベースのデータとして公表される。そこで、本研究では、IHF より試合終了直後に紙ベースのアナログデータとして公表されたシュート局面データシートを用いたシュート位置とシュートコースの定量化を提案することを目的とした。

シュート位置とゴール位置の算定

シュート局面データシート（シュートをした位置（シュート位置）とシュートされたボールがゴールに達したときの位置（ゴール位置）が記されている）は、IHF ホームページよりダウンロードして入手した。なお、このシュート局面データは、コートは直上からみた x，y 座標、ゴールは真横からみた y，z 座標で表されていたが、本研究では、x，y 座標のみを使用した。

本研究では、シュート位置とゴール位置を算定するために、このシュート局面データを、コート 4 隅位置とゴールの左右ゴールポスト位置および、それぞれのシュート位置とゴール位置をデジタイズし、x,y 平面座標を算出した。同時に、シュートを行った選手番号と得点成否も記録した。デジタイズにて算出された x,y 座標は、概知の値であるハンドボールコートとゴールサイズの縦横距離を用いて縮尺を実際の値に変更した。

シュートコースの算定

本研究では、シュートコースを、ゴール中心位置を基準としたシュート角度（ShootingAngle）として定量化した。ShootingAngle を算出するために、それぞれのシュートに対応した左ゴールポスト位置、右ゴールポスト位置、ゴール位置、シュート位置をそれぞれ A 点、B 点、C 点、D 点とし、A 点、B 点、D 点より、内積の式より、それぞれのシュート位置での左右ゴールポスト間角度（PostAngle）を算出した。式は次のようであった。

$$\cos\theta = \frac{ax \times bx + ay \times by}{\sqrt{(ax^2 + ay^2)(bx^2 + by^2)}} \quad \cdot\cdot\cdot (1)$$

ただし、辺 DA と辺 DB のベクトルは、それぞれ a と b とした。また、求められた cos θに逆三角関数 cos-1 を用いてθを算出した。

また、ShootingAngle は、A 点、C 点、D 点より、シュート位置での左ゴールポストとシュートによりボールがゴールに到達した位置との間の角度を算出し、この角度と (1) で求めた PostAngle の 1/2 の値との間の差を求めた。式は次のようであった。

$$\cos\theta = \frac{ax \times cx + ay \times cy}{\sqrt{(ax^2 + ay^2)(cx^2 + cy^2)}} \quad \cdot\cdot\cdot (2)$$

$$\cos\theta = (2) - (1)/2 \quad \cdot\cdot\cdot (3)$$

ただし、辺 DA、辺 DC のベクトルはそれぞれ a、c とする。また、求められた cos θに逆三角関数 cos-1 を用いてθを算出した。ここで、算出された ShootingAngle θは、それぞれのシュート位置での PostAngle の中心からの変化量を示している。つまり、値がプラスである場合は中心より右方へ、値がマイナスである場合は中心より左方へ、値が 0 である場合は、ゴール中心へボールが放たれたことを示す。

データ解析および考察

サンプルデータは、第 17 回世界女子ジュニア選手権での日本チーム、中国チーム、韓国チームのシュート局面すべてであった。

図 1 上段は、コート y 軸（サイド間）と PostAngle の関係を示している。PostAngle は、6m ラインに沿ってコート両端からコート中央部に向かって、大きくなっていくことが窺える。ここで、コート y 軸 5m から 15m の間と PostAngle 10 度から 15 度の間に横に広がる点は、ロングディスタンスシュートを示し、ゴールポストとシュート位置との距離が遠くなるほど PostAngle が小さくなることが示された。

PostAngle データを日本、韓国、中国チームで比較すると、韓国チームは、他の 2 チームと比較して、コート中央部でのシュート数が多く、コールポストとシュート位置の距離も他の 2 チームと比較して多彩であることが示されている。

図 1 中段にはコート y 軸と ShootingAngle の関係を示した。成功したシュートをみてみると、コート y 軸を表す横軸の値に関係なく、それぞれ上方では 5 度、下方では－ 5 度あたりにプロットが集中しており、成功するシュートは、位置に関係なくゴール中央より左右 5 度程度の角度が必要であることが示されている。これらのことから、y 軸の 0 の値を境に 2 分し、それぞれの ShootingAngle の分散を検討すれば、シュート精度を定量的に評価することが可能である。

また、本データにて、それぞれのコート y 軸でのシュート位置とシュートコース特性を確認することが可能になる。例えば、日本チームと韓国チームの比較として、左側ウイングシュートでは、日本、韓国両チームともに、ファーサイドへのシュート（角度がプラス方向へのシュート）が多く、ニアサイドへのシュート（角度がマイナス方向へのシュート）は少ないが、韓国チームのファーサイドとニアサイドのシュート数の差は、日本チームに比べ少ないことから、両チームでのウイングシュートでのシュートコースに差異があるという、ウイングシュートの特性を明らかにすることができる。

図 1 下段には、コート y 軸でのシュート位置に対して ShootingAngle 相対的に示している。相対的なゴール位置の値は、1 に近づくほど右ゴールポスト側へ、一方、0 に近づくほど左ゴールポスト側へ、0.5 であればゴール中央にボールが位置していることを示している。また、値が 1 以上や 0 未満であれば、ゴールポスト外にボールが位置していることを示しており、この図から成功したシュートのゴール位置のほとんどは左右ゴールポスト付近であることがよくわかる。また、チーム間比較では、中国チームは、コート y 軸に関係なく、ゴール中央へのシュートは他のチームに比較して少ないことが観察できる。日本チームは、コート y 軸の中央部分からのシュート位置で、左右ゴールポスト付近へのシュートは少なく、ゴール中央側へのシュートが比較的多い。また、図 1 上段と同時に考えると、これらコート中央部分からゴール中央へのシュートのほとんどはロングディスタンスシュートであることが理解できる。一方、韓国チームはロングディスタンスシュートであっても、左右ゴールポスト付近へシュートをしていることが上段と下段のグラフから読み取れる。

図 1 シュート位置 y 座標とシュート位置での左右ゴールポスト間角度、ゴール中央を基準としたシュート角度、相対的なゴール位置の関係

おわりに

本研究の提案手法により、シュート位置やシュートコースの定量化が可能である。これら定量化されたデータは、多数の試合データを用いたシュート位置やシュートコースのデータベース化を容易にし、シュート位置、シュートコースのチーム間および個人間比較、チームや個人の攻撃傾向の把握、チームや個人の成長度を時系列に観察するなどの分析を可能にする。ただし、本研究では、シュート位置とゴール位置からの定量化であったことから多くの制限があることが考えられる。例えば、ハンドボールでのシュートコースは、ボールを保持するまで、または保持した後のシュート位置までの進行方向や速度に大きく影響される。さらに、シュートコースは、相手チームの防御者やゴールキーパーの位置や動きなどとの相互作用によって決定される。これらのことから、本研究のようなデータシートを用いた分析では大きなバイアスが生じていることが容易に考えられる。

審判部報告

全日本総合ハンドボール選手権大会の審判員として参加して

岡山県ハンドボール協会・太田 智子

全日本総合ハンドボール選手権大会といえば日本ハンドボール界の最高峰の戦い、スピード、身体を張ったディフェンス、華麗なるシュート、戦術、どれをとっても日本のトップレベルです。平成23年度は12月21日から25日まで、横浜市の横浜国際プールで行われました。そこに集められた審判団は、今年度のトップレフェリーを中心とした全9ペアでした。私自身が学生だったころから審判をされている国内トップのベテラン・ペアと、一方で今年度国際審判員資格を取得した若手のペアとの融合が実現しました。若手のペアにとっては願ってもない舞台で、先輩レフェリーの姿を見て感じたことがたくさんありました。大会に先立って行われた審判会議・研修会では、植村審判部長の代理を務めた浜田審判長の「最高峰の戦いに集められた最高峰の審判団である。成り上がるのではなく、初心に返って選手が良いプレーを発揮できる環境を整えよう。それが役目である。」と言う言葉の重さをひしひしと感じ、一番緊張した瞬間でした。さらに藤井副審判長の「審判団に差はなく、ここにいる全員が今大会の一審判員である。意見を交わしながら、全ての試合で同じ判定がなされる努力をしよう」という言葉に審判団は一つになり試合に臨みました。

初日から白熱した展開のゲームがありました。点差のつくゲームもありましたが、審判団としては、全ての試合で同じ判定がなされるためには、どの試合も高いモチベーションで吹くことが求められました。今大会の目玉でもあるのは、日本のハンドボール界をリードし続ける日本リーグ勢とクラブチーム、大学生、J.H.A.アカデミーの試合が行われるところではないでしょうか。スピードの違いやパワーの違い、戦術、技術、その他多くの違いがあるなかで、以下のようなことを目標に取り組みました。

- 一審判員として節度ある行動をとる。
- アピールに対して最初に厳しく対処する。
  シミュレーションプレーを排除する。
- とくにゲーム開始の10分間を明確かつ丁寧に吹笛する。
  目標を明確にする。
- 一方のチームの現象はもう一方のチームでも同じ笛を鳴らす。
- ディフェンスの陣形に合わせて、プレーの観察位置を変える。
- 最後まで一貫した笛を吹く。
  許される行為と許されない行為を明確にする。
- アドバンテージを的確にみる。
- プレーヤーの安全と健康を守るために、
  レッドカードを出すことに躊躇しない。

試合が終わっての反省会では、私自身とペアとしてアドバイスをいただいたことを含めて、多くの意見が出されました。上記の事柄に加えて、

- プレーヤー間の小競り合いを適切に対処する。
- フリースロー時の3mをしっかり確保する。
- 笛の音色をもっと使い分ける。
- サイドシュートに対する接触を見極める。
- 丁寧に誠実に対応し、わかりやすく笛を吹く。
- ペアとして一貫した笛を吹く。

試合をとおして、「出来て当たり前だろう」と思うことや誰の目につくこともないであろうことでも正確・丁寧に行っている審判員の姿に流石だなと感心させられるとともに、判定の見極めも大事だと思いますが、私は今大会を終えて、誰でも出来ること（立ち居振る舞い、ルールブックどおりのジェスチャー、ターンオーバー時の走り方など）がきっちり出来る審判員になりたいと改めて強く感じました。それが基盤になっていくのだと思いました。また、1日目を終えて安心したのか、2日目には39度の熱を出してしまい、何とか平静を保ちながら担当を終えましたが、その後は寝込む事態になってしまいました。審判員にとって精神的・身体的コンディションが要求されるなか、私は意識しない部分で油断をしてしまっていたのでしょう。このことからも未熟さを痛感しました。

今大会は、全日本総合を担当できるのは最後の審判員、全日本総合を担当するのは初めての審判員がいました。経験も違えば考え方も違って、それぞれ感じることは大きく違ったと思います。ただ、第63回全日本総合ハンドボール選手権大会の舞台に立ったという事実は同じです。このことから、私は諸先輩方からの無言のメッセージを受け取った気がします。年々、審判員の技術が向上していく一方で、安定した笛を吹ける審判員が少ないと言われています。大会中に、ふと周りを見渡すと次のようなことが頭の中に過りました。「若手の成長を多くの方が期待している」、「謙虚な姿勢を常にもたなければならない」、「多くの経験をさせてもらい、どんな小さな事でも吸収しなければいけない」、「下の世代に伝える」、これが今大会集められた若手レフェリーに求められているものであり、言うだけではなく実践しなければならない、そして急務であることを感じました。

最後になりましたが、今大会に際しまして（財）日本ハンドボール協会の皆様をはじめ、地元の皆様やハンドボールファンの方々に感謝申し上げ、報告とさせていただきます。

スコアールーム①

第20回JOCジュニアオリンピックカップ2011ハンドボール大会

開催期日：2011年12月24日（土）～28日（水）
会　　場：愛知県名古屋市・愛知県体育館ほか

【男　子】

▼予選リーグA組

福　岡　25（14－13、11－11）24　兵　庫
名古屋　38（18－7、20－10）17　福　岡
名古屋　26（14－9、12－12）21　兵　庫

▼予選リーグB組

岡　山　28（14－15、14－6）21　埼　玉
岩　手　24（13－7、11－12）19　岡　山
岩　手　22（10－14、12－7）21　埼　玉

▼予選リーグC組

富　山　27（16－9、11－16）25　大　分
富　山　30（16－18、14－12）30　岐　阜
大　分　38（19－14、19－15）29　岐　阜

▼予選リーグD組

京　都　24（10－10、14－13）23　香　川
神奈川　36（17－13、19－21）34　京　都
神奈川　29（13－9、16－10）19　香　川

▼予選リーグE組

東　京　43（19－13、24－18）31　宮　崎
東　京　44（25－15、19－24）39　福　井
福　井　40（20－18、20－13）31　宮　崎

▼予選リーグF組

愛　知　21（9－9、12－11）20　秋　田
大　阪　29（16－14、13－11）25　愛　知
大　阪　43（22－7、21－11）18　秋　田

▼予選リーグG組

熊　本　32（13－7、19－14）21　福　島
熊　本　32（18－14、14－14）28　山　口
山　口　27（13－10、14－6）16　福　島

▼予選リーグH組

沖　縄　36（18－12、18－12）24　北海道
沖　縄　37（17－11、20－14）25　茨　城
茨　城　32（17－11、15－14）25　北海道

▼準々決勝

名古屋　26（13－6、13－13）19　岩　手
富　山　32（18－9、14－15）24　神奈川
東　京　40（18－9、22－16）25　大　阪
沖　縄　36（19－11、17－11）22　熊　本

▼準決勝

名古屋　30（15－12、15－12）24　富　山
沖　縄　39（21－12、18－16）28　東　京

▼決　勝

沖　縄　28（16－7、12－16）23　名古屋

【女　子】

▼予選リーグa組

東　京　37（22－6、15－9）15　福　島
東　京　35（22－6、13－8）14　愛　媛
福　島　29（16－4、13－12）16　愛　媛

▼予選リーグb組

兵　庫　23（14－4、9－14）18　沖　縄
沖　縄　19（10－7、9－7）14　愛　知
愛　知　25（12－8、13－13）21　兵　庫

▼予選リーグc組

富　山　20（8－9、12－8）17　茨　城
山　口　32（14－12、18－9）21　茨　城
山　口　17（7－7、10－10）17　富　山

▼予選リーグd組

宮　崎　19（10－10、9－8）18　三　重
香　川　16（8－7、8－7）14　三　重
宮　崎　18（11－5、7－11）16　香　川

▼予選リーグe組

名古屋　26（12－13、14－4）17　群　馬
群　馬　20（11－4、9－5）9　徳　島
名古屋　28（12－4、16－4）8　徳　島

▼予選リーグf組

京　都　23（12－10、11－11）21　岩　手
大　分　26（12－9、14－8）17　京　都
大　分　26（13－9、13－11）20　岩　手

▼予選リーグg組

埼　玉　33（21－2、12－10）12　岡　山
石　川　25（12－10、13－10）20　岡　山
埼　玉　23（10－12、13－4）16　石　川

▼予選リーグh組

大　阪　21（11－8、10－12）20　北海道
熊　本　28（10－5、18－6）11　大　阪
熊　本　35（16－3、19－6）9　北海道

▼準々決勝

東　京　32（16－10、16－10）20　兵　庫
山　口　25（10－10、15－5）15　宮　崎
大　分　19（11－10、8－7）17　名古屋
埼　玉　21（11－7、10－12）19　熊　本

▼準決勝

東　京　25（12－7、13－14）21　山　口
埼　玉　26（7－12、13－8）22　大　分
（3－1、3－1）

▼決　勝

東　京　25（12－9、13－9）18　埼　玉

スコアールーム②

全日本社会人チャレンジ2012

開催期日：2012年2月10日（金）～13日（日）
会　　場：愛知県・大同特殊鋼㈱体育館ほか

▼1回戦

プラザー工業　21（5－12、13－6）19　豊田自動織機
（3－1）
八光自動車工業　21（11－8、10－7）15　自衛隊久里浜
新日鐵名古屋　23（12－7、11－13）20　高知クラブ
大同クラブ　22（13－8、9－3）11　金沢市役所
EHC　45（19－3、26－4）7　日本耐酸壜工業
マツダ　19（9－7、10－10）17　大阪ガス
トヨタ自動車　34（16－4、18－5）9　プラザー工業
八光自動車工業　32（15－7、17－6）13　新日鐵名古屋
EHC　22（8－10、10－8）19　トクヤマ
（4－1）
大同クラブ　26（18－5、8－8）13　マツダ

▼順位決定Aブロック

大同クラブ　22（12－8、10－8）16　新日鐵名古屋
自衛隊久里浜　27（14－8、13－8）16　日本耐酸壜工業
大同クラブ　31（17－10、14－9）19　マツダ
新日鐵名古屋　23（14－10、9－11）21　自衛隊久里浜
マツダ　29（14－9、15－10）19　日本耐酸壜工業
新日鐵名古屋　31（19－7、12－7）14　日本耐酸壜工業
自衛隊久里浜　24（12－7、12－7）14　マツダ
大同クラブ　41（22－3、19－4）7　日本耐酸壜工業
新日鐵名古屋　29（19－7、10－12）19　マツダ
大同クラブ　25（15－12、10－8）20　自衛隊久里浜

▼順位決定Bブロック

高知クラブ　30（17－5、13－9）14　大阪ガス
金沢市役所　28（13－7、15－8）15　プラザー工業
高知クラブ　29（12－10、17－12）22　豊田自動織機
金沢市役所　28（17－4、11－11）15　大阪ガス
豊田自動織機　29（13－8、16－8）16　プラザー工業
プラザー工業　26（10－6、16－7）13　大阪ガス
金沢市役所　27（17－4、10－12）16　豊田自動織機
高知クラブ　27（15－8、12－7）15　プラザー工業
豊田自動織機　16（6－8、10－8）16　大阪ガス
高知クラブ　20（10－10、10－10）20　金沢市役所

▼準決勝

八光自動車工業　28（15－11、13－13）24　トヨタ自動車
トクヤマ　20（9－9、11－8）17　EHC

▼3位決定戦

トヨタ自動車　19（13－8、6－10）18　EHC

▼決勝戦

トクヤマ　29（14－6、15－12）18　八光自動車工業

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」1・2月入会・継続会員

【岩　手】多田和生【山　形】五島訓二【茨　城】岡本　大【埼　玉】中上達生、辻　幸志、辻　七海【千　葉】窪田　優
【東　京】伊東　卓、田村正一、田村裕子、荘林康次、堀江成典、大場信吾【神奈川】田村修治、【新　潟】遠藤正伸
【石　川】寺垣俊彦【静　岡】村井美保子【愛　知】林　薫、林ひろみ、宮地光男【京　都】廣瀬佳代、【大　阪】長嶺利昭
【奈　良】木村加代、木村和正【岡　山】福岡誉之【広　島】西山絵理【福　岡】浅野　衛、【熊　本】井本光次郎

【4月の行事予定】

【会議】

4月14日(土)　常務理事会（東　京）
4月21日(土)　東アジア連盟総会（日　本・福井市）

【大会】

4月6日(金)～8日(日)
第30回オリンピック競技大会男子世界最終予選
（スペイン、スウェーデン、クロアチア）
4月20日(金)～22日(日)
第9回東アジアクラブ選手権(男・女)(福井市)

HAND BALL CONTENTS Mar. Apr.

（登録チームの購読料は登録料に含む）

（財）日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第五二六号

昭和四十年六月七日
第三種郵便物認可

平成二十四年三月二十六日印刷
平成二十四年四月一日発行

東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表 〇三―三四八一―二三六一
振替 〇〇一二〇―七―一〇二九三

編集兼発行人 川上憲太

定価 年間 三三〇〇円